IBM Cognos PowerPlay Studio バージョン 11.0

# ユーザー・ガイド



©

### 製品情報

本書は IBM Cognos Analytics バージョン 11.0.0 を対象として作成されています。また、その後のリリースも対象 となる場合があります。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示さ れたりする場合があります。

- 原典: IBM Cognos PowerPlay Studio Version 11.0 User Guide
- 発行: 日本アイ・ビー・エム株式会社
- 担当: トランスレーション・サービス・センター

### 著作権

Licensed Materials - Property of IBM

© Copyright IBM Corp. 2005, 2018.

IBM、IBM ロゴおよび ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。

以下は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

- Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、PostScript ロゴは、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国に おける登録商標または商標です。
- Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国 における商標です。
- インテル、Intel、Intel ロゴ、Intel Inside、Intel Inside ロゴ、Intel Centrino、Intel Centrino ロゴ、 Celeron、Intel Xeon、Intel SpeedStep、Itanium、および Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国お よびその他の国における商標または登録商標です。
- Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。
- UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。
- Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標 または登録商標です。

Microsoft 製品のスクリーン・ショットは、Microsoft の許可を得て使用しています。

# 目次

はじめに	•		•	•	•	• •	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	• •	. vii
第 1 章 PowerPlay Studio........																			. 1
PowerPlay Studio Explorer																			. 1
PowerPlay Studio Explorer のインターフェース																			. 2
カテゴリーの選択																			. 4
数値データの選択..................																			. 5
PDF ビューアー																			. 6
レポート内容のカスタマイズ............																			. 6
ページのレイヤーの表示																			. 7
レポートの検討																			. 7
レポートの管理																			. 7
第2章 データの閲覧																			. 9
特定のディメンションまたは数値データの検索																			. 9
シナリオ・ディメンション																			. 10
ドリルダウンとドリルアップ		÷	÷						÷										. 10
カテゴリーへの複数のパス	•	·	•	•	•	•	•		·	•	•	•	•	•	•	•	•	•	11
制限されたデータ値	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	. 11
データのフィルター	•	·	·	•	•	•	•	•	·	•	•	•	•	·	•	•	•	•	. 11
カテゴリーのネスト	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	. 11
行列にお上げネスト・レベルの移動またはコピー	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	. 11
カテゴリーのサブセットの作成	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	. 12
協安冬供またけ数値データ値を伸用したサブセットの作成	•	·	•	•	·	•	•	•	·	•	•	•	•	•	•	•	•	•	. 13
快赤木作よたは奴値ケース値を使用したサブビノトの作成	·	•	·	•	·	·	•	•	•	•	•	·	·	•	·	·	•	•	. 15
カナコケー 医沢を使用したサブをサーの作成	•	·	·	·	•	•	•	•	·	•	•	•	•	·	·	•	•	•	. 14
レホートでのリイスシンヨンを使用したリノセットの作成	·	·	·	·	·	•	·	•	·	•	•	•	·	·	·	•	·	·	. 15
上位カノコリーと下位カノコリーを持 フリノセットの作成.	·	·	·	·	·	•	·	·	•	·	·	•	·	•	·	•	·	·	. 15
サブセットのコピーの作成	·	·	·	·	·	•	·	·	•	·	·	•	·	•	·	•	·	·	. 10
サノセット内のカチョリーの追加または削除	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	. 10
	·	·	·	·	·	•	·	·	·	·	·	•	·	•	·	•	·	·	. 16
リノセットからルナコリーを削除する	·	·	·	·	·	•	·	·	·	·	·	•	·	•	·	•	·	·	. 17
	·	·	·	·	·	•	·	•	·	·	·	•	·	·	·	•	·	•	. 17
台計よたは小計の非衣示 - · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	·	·	·	·	·	•	·	•	·	·	·	•	·	·	·	•	·	•	. 17
	·	·	·	·	·	•	•	·	·	·	·	•	·	•	·	•	•	•	. 18
	•	·	•	•	·	•	·	•	•	·	·	•	•	•	·	•	·	•	. 19
	•	·	·	·	·	•	·	·	·	·	·	•	•	·	·	·	·	·	. 19
	·	·	·	•	·	·	•	·	·	·	·	•	·	•	•	·	•	•	. 20
<b>趨勢法 (</b> 線形または直線)	·	·	·	·	·	•	·	•	·	·	·	•	·	·	·	•	·	•	. 20
成長法 (曲線形または曲線)	•	•	·	·	•	•	•	•	·	•	•	•	•	•	•	•	•	•	. 21
自己回帰法 (李節性)	•	•	•	•	•	•	•	•	·	·	·	•	•	·	•	·	•	·	. 21
予測の作成	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	. 21
デザイン・モードでの作業	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	. 22
代替階層の分析	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	. 22
グラフと表の同時表示................	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	. 23
説明の表示		•		•	•	•	•	•	•			•	•	•		•	•	•	. 23
PowerPlay Studio との間のドリルスルー	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	·	. 24
第3音 データの建士設定																			27
	-		•	•	• •	• •	-	•	•	•	•	•	•	•	• •	•	•		. 21
农亦形式	·	·	·	•	·	•	·	·	·	•	•	•	·	·	•	•	·	·	. 27
クロ人集計表示	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	·	•	•	. 27

インデント・クロス集計表示	
円グラフ表示.................	
棒グラフ表示................	
クラスター棒グラフ表示	
積み上げグラフ表示	30
折れ線グラフ	30
」 加速のポンプン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	30
	20
3D (P(Y)) = 1 + 2 + 2 + 2 + 2 + 2 + 2 + 2 + 2 + 2 +	
表示の変更	
表示の選択・・・・・・・・・・・・・・・	
グラフ表示の変更	
相関グラフで使用される数値データの変更	
レポートの値のパーセント表示..........	
統計線の表示....................	
通貨値の変換.....................	
例外のハイライト (カスタム)	
ユーザー設定ハイライトの定義	33
ユーザー設定ハイライトの適田	34
ー う 取足パークーーの週間	
80/20 消去の適用	
Y 軸の変更	
グラフのサイズ変更	
凡例の書式設定..................	
数値データ値の値に基づくランク・カテゴリーの追加 .	
カテゴリーの非表示	
短い形式名の表示	
タイトルの追加	
レポート・タイトルで有効な HTML タグ	43
レポートでの複数の数値データの表示	
レポートに複数のカテゴリーを表示するためのレイヤーの	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
ま二のパカーンと色の本西	医内
育 京 巴 の 週 用	
書式マーカーの追加	
弗4草 結果の配作 ・・・・・・・・・・・	
レポートの作成.................	
既存のレポートの置換...............	
別の形式へのデータのエクスポート	
CSV ファイル形式によるデータのエクスポート	
Microsoft Excel 形式へのデータのエクスポート	
PDF 形式によるデータのエクスポート	
ブックマークの作成	51
レポートの印刷	50 F10 F10 F10 F10 F10 F10 F10 F10 F10 F1
他のアプリケーションのグラフ表示の再利田	
四マテノファ マコマのノフク X小の円利用 · · · ·	
第5音 予測の式	53
<u> 飕労</u> ア側の式	
成長	
目己回帰予測の式	

付録. トラブルシューティング	55
PowerPlay Studio で計算を挿入するとエラーが発生する....................................	. 55
スケジュールされたレポートの E メールでリンクを開いたときにエラーが発生する	. 55
日本語でグラフ・タイトルを編集中にページ・エラーが発生する............................	. 55
PowerPlay Studio で PowerPlay レポートを開く際、Firefox ブラウザーでエラーが報告される問題	. 55
長い文字列が途中で切り詰められる....................................	. 55
グラフに表示されるヘブライ語のテキスト.................................	. 56
PDF へのエクスポート後に円グラフにある"その他"カテゴリーのラベルが実際のカテゴリー名に変更される	. 56
表示が読めないあるいは正しく表示されない..................................	. 56
横軸のラベルが縦方向または斜め方向に表示されない	. 56
別のパッケージにドリルスルーしたときに、レポートのコンテキストが正しく渡されない	. 56
出力バージョン・リストからレポートを表示すると、レポートが常に Cognos Viewer で開く	. 57
別のパッケージにドリルスルーしたときに、レポートのコンテキストが期待どおりに渡されない......	. 57
바ㅋㅋㅋ	
符記事項 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	59
赤さ	60
※り....................................	03

# はじめに

本書は、IBM<sup>®</sup> Cognos<sup>®</sup> PowerPlay<sup>®</sup> Studio で使用するためのものです。

### 対象読者

このドキュメントを使用するには、次の経験と知識が必要です。

- ビジネス分析のコンセプトについての知識
- ビジネス要件についての知識

### 情報の入手方法

翻訳されたすべての資料を含む、製品資料を Web で検索するには、IBM Knowledge Center (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter) にアクセス してください。

### ユーザー補助機能

現在 IBM Cognos PowerPlay Studio では、アクセシビリティー機能はサポートさ れていません。アクセシビリティー機能とは、動作が制限されている方、視力の限 られた方など、身体の不自由な方に製品をご使用いただけるように支援する機能の ことです。

### 将来の見通しに関する記述

このドキュメントには製品の現在の機能が記載されています。現在利用できない項 目への言及が含まれる場合もありますが、将来的に使用可能になることを示唆する ものではありません。このような言及は、なんらかの資料、規約、または機能を提 供するという誓約、保証、または法的義務ではありません。特性や機能の開発、公 開、およびその時期に関しては、引き続き IBM が単独裁量権を有します。

### サンプルに関する特記事項

Sample Outdoors 社、Great Outdoors 社、GO 販売、Sample Outdoors または Great Outdoors の名前のすべてのバリエーション、および Planning サンプルで は、IBM および IBM のお客様向けのサンプル・アプリケーションを開発するため に使用されるサンプル・データにより、架空の企業活動が描出されています。これ らの架空データには、販売取引、商品流通、財務、および人事のサンプル・データ が含まれます。実在する名称、住所、連絡先電話番号、取引額とは一切関係があり ません。また、サンプル・ファイルの中には、手動またはコンピューターで生成さ れた架空のデータ、学術的ソースまたは公共のソースを基に編集された実際のデー タ、版権所有者の許可を得て使われているデータなどが、サンプル・アプリケーシ ョンを開発するためのサンプル・データとして使用されている場合もあります。参 照される製品名は、それぞれの所有者の商標である可能性があります。許可なく複 製することは禁止されています。

# 第1章 PowerPlay Studio

IBM Cognos PowerPlay Studio は、PowerCube データ・ソースに基づくレポートの作成と表示に使用します。

PowerPlay Studio には、IBM Cognos Analytics ポータルの「新規」 > 「その 他」メニューからアクセスします。 Cognos Analytics ポータルには、Cognos Analytics で使用可能なすべての企業データへの単一のアクセス・ポイントが用意さ れています。ポータルを使用すると、レポート、パッケージ、ダッシュボード、ま たはストーリーなどの項目を処理できます。また、ポータルを使用してショートカ ットや URL を作成したり、項目を整理および実行したりすることもできます。ポ ータルを個人用にカスタマイズできます。

Cognos Analytics では、レポート作成者はパッケージを使用してキューブなどのデ ータ・ソースにアクセスします。最初に、管理者がキューブへのデータ・ソース接 続を作成します。モデル作成者が Framework Manager を使用してデータ・ソース からモデルを作成し、パッケージを発行します。これにより、レポート作成者のデ ータ利用が可能になります。オプションとして、PowerCube がデータ・ソースの場 合は、データ・ソース接続の作成時にパッケージが自動生成されるように管理者が 選択すれば、Framework Manager でパッケージを作成する必要がありません。

新しいレポートを作成するには、PowerPlay Studio でパッケージを開き、レポート のデータと形式を選択して、Cognos Analytics ポータルにレポートを保存します。 ポータルでは、PowerPlay レポートのデフォルト・アクションは、PowerPlay Studio Explorer で対話形式でレポートが開くように設定されています。レポートの プロパティーでデフォルト設定を変更し、PDF 形式でレポートを開くようにするこ ともできます。レポート利用者は、デフォルトの処理の設定に関係なく、PDF 形式 と双方向形式のどちらでレポートを開くかを選択できます。

管理者は、匿名アクセスを許可するように Cognos Analytics を構成できます。ただし、認証情報を入力せずにポータルにアクセスし、保護されているパッケージを開こうとすると、資格情報を求めるプロンプトが表示されます。

### **PowerPlay Studio Explorer**

IBM Cognos PowerPlay Studio Explorer には、ビジネス分析に対する多次元的な アプローチをサポートするための包括的なツール・セットが用意されています。こ のツールを使用すると、データの主要なディメンションと数値データをさまざまな 組み合わせで調査できます。ビジネスの各分野が全体の結果に与える影響を見きわ め、さらに検討と分析を進めながら、その影響を他のディメンションと比較するこ とができます。

情報を検討するときに、次のような操作を実行できます。

- 結果への独自計算の追加
- データのフィルター
- 値の消去、ハイライト表示、ソート

- クロス集計、円グラフ、棒グラフなどの表示形式と表示するデータ量の選択
- レポートの発行、エクスポート、印刷、ブックマーク

PowerPlay Studio Explorer でキューブやレポートを開くと、管理者が指定した表示形式でデータが表示されます。

• 拡張表示

2 つの拡張表示オプションがありますが、機能は同じです。デフォルト表示形式の「高度 - IBM Cognos Analytics」は、IBM Cognos Analytics の他の
 Studio/Authoring ツールと整合性があります。「Series 7 スタイル」の表示形式では、IBM Cognos Series 7 PowerPlay Web と同じ外観が維持されます。

Generic

ダイヤルアップ回線など、ネットワークの帯域幅が狭い環境では、ユーザーの応 答時間を短縮するために標準表示形式を管理者が選択する場合があります。ま た、標準表示は、拡張 Java ベースの Web ページをサポートしていない Web ブラウザーでも問題なく表示できます。拡張表示と標準表示ではユーザー・イン ターフェース・オプションが異なりますが、両方の表示形式で同じ結果を得るこ とができます。

### PowerPlay Studio Explorer のインターフェース

拡張表示形式のいずれかを選択すると、IBM Cognos PowerPlay Studio Explorer のインターフェースに次の要素が表示されます。

GC6_1	4 14 44 Ye	ears - Products -	Sales regions *	• Retailers • Marg	n range 👻 ME	ASURES 👻 🕪	н 🐔 虔
Products	Revenue as values	Camping Equipment	<u>Golf</u> Equipment	Mountaineering Equipment	Outdoor Protection	Personal Accessories	Products
	2004	333,298,825	153,642,831	0	36,163,624	391,632,187	914,737,463
	2005	403,130,191	168,280,109	107,140,704	25,006,708	456,359,025	1,159,916,733
	2006	500,919,729	231,372,689	161,046,514	10,359,215	594,234,053	1,497,932,200
	2007	353,381,282	175,748,575	141,528,413	4,473,391	443,812,970	1,118,944,631
	Years	1.590.730.027	729.044.204	409.715.631	76,002,938	1,886,038,235	4,691,531,035

図 1. PowerPlay Studio インターフェース

デ

### 表示する値

表示の行見出し、列見出し、データ・セルを右クリックすると、個々のデータ要素 に関連付けられている操作を実行できます。

#### 表示ツールバー

拡張表示にあるコントロールの多くは、表示ツールバーから開くメニューやダイア ログ・ボックスで使用できます。

このドキュメントでは、表示ツールバーをツールバーと呼びます。

### ディメンションの表示

ディメンションの表示には、キューブ内にあるディメンションと数値データの、完 全なツリー・ビューが表示されます。このビューを使用して、データ構造を理解し たり、必要なアイテムを検索したりできます。ディメンションの表示では、選択し たキューブに含まれているすべてのディメンション、レベル、カテゴリーが、整理 および表示されます。

ディメンションの表示では、ドラッグ・アンド・ドロップまたは右クリックを使用 して次の操作を実行できます。

- 行または列の変更
- 数値データの変更または新しい数値データのレポートへの追加
- ネストされたクロス集計またはグラフの作成
- フィルター

### ディメンションの表示ツールバー

ディメンションの表示ツールバーのボタンを使用して、ディメンションの表示から アイテムをドラッグしたときと同じ操作を実行できます。

ディメンションの表示ツールバーを表示するには、ディメンションの表示を右クリ ックし、「ツールバーの表示」をクリックします。

Microsoft Internet Explorer 以外の、サポートされているブラウザーを使用する場合は、次の点に注意してください。

- ディメンションの表示ツールバーはデフォルトで使用可能です。
- ドラッグ・アンド・ドロップ操作はサポートされていません。ディメンションの 表示ツールバーを使用してタスクを実行してください。

### ディメンション・ライン

ディメンション・ラインを使用して、行および列にカテゴリーを追加したり、キュ ーブ内のデータにフィルターをかけることができます。ディメンション・ラインか らクロス集計またはグラフにアイテムをドラッグしたり、カテゴリーを右クリック してデータに関する情報を表示したりできます。

### レベル・セレクター・ツールバー

レベル・セレクター・ツールバーを開くには、行または列のレベル・セレクター領 域をクリックします。このツールバーには、カテゴリーの展開、データ・レベルの 削除、カテゴリーの入れ替え、レベルの変更、説明の表示を行うボタンが表示され ます。

### カテゴリーの選択

他のディメンションのカテゴリーを検討するには、現在のカテゴリーに代わるカテ ゴリーを選択するか、ネストされたカテゴリー をレポートに追加します。

新しいレポートを作成すると、ディメンション・ラインにある最初の 2 つのディメ ンションのカテゴリーが、行および列として表示されます。モデル作成者は、キュ ーブを作成するときにディメンションの編成を指定します。各ディメンションは、 ディメンションの表示にフォルダーとして表示され、さらにレポートのディメンシ ョン・ラインにも表示されます。たとえば、キューブのディメンションには、年、 場所、製品、および販売経路が含まれることが考えられます。ディメンション・ラ インで全カテゴリーの交点が計算され、値がレポートに反映されます。

カテゴリーは、レポートにハイパーリンクとして表示されます。カテゴリーをクリ ックすると、その子カテゴリーがレポート上のカテゴリーに置き換わります。合計 カテゴリーをクリックすると、その親カテゴリーがレポート上の子カテゴリーに置 き換わります。

また、管理者がキューブに算出カテゴリーを定義している場合は、これらの算出カ テゴリーを追加し、特定のデータの組み合わせを分析することもできます。

#### ディメンション・ラインを使用したカテゴリーの変更

ディメンション・ラインを使ってカテゴリーを追加するには、ディメンション・ラ インから列見出し領域または行見出し領域までカテゴリーをドラッグします。

#### ディメンション表示ツールバーを使用したカテゴリーの変更

ディメンション表示ツールバーには、カテゴリーを追加または変更するためのオプ ションがいくつかあります。

#### 手順

- ディメンションの表示ツールバーがディメンションの表示に表示されない場合、 ディメンションの表示の下の領域を右クリックし、「ツールバーの表示」をクリ ックします。
- ディメンションの表示で、行または列として表示するレベルやカテゴリーを展開 してクリックします。
- ディメンションの表示ツールバーで、カテゴリーを追加する場所を次のように選 択します。
  - ネストされた行の外側のレベルとして選択項目を追加するには、「指定行の 前に挿入」ボタン
     をクリックします。
  - 現在の行を置き換えるには、「行の置換」ボタン
     をクリックします。
  - 行のネスト・レベルとして選択項目を追加するには、「指定行の後に挿入」
     ボタン
     ・
     をクリックします。
  - ネストされた列の最上位レベルとして選択項目を追加するには、「指定列の 前に挿入」ボタン
     をクリックします。

- 現在の列を置き換えるには、「列の置換」ボタン
   をクリックします。
- 列のネスト・レベルとして選択項目を追加するには、「指定列の後に挿入」
   ボタン
   ・
   ・
   ・
   ・
   ・
   ・
   ・
   レベルとして選択項目を追加するには、「指定列の後に挿入」

### 数値データの選択

数値データとは、ビジネスが順調に運営されているかどうかを見極めるために使用 される数値化が可能な実績指標のことです。

数値データには、次のようなものが考えられます。

- 出荷単位数、販売金額、支出、在庫レベル、割当量など、入手可能な情報の単純 な集計
- 収益差異 (予測収益 実収益) などの算出値

デフォルトでは、数値データのリストの最初の数値データが表示に使用されます。

### ディメンション・ラインを使用した数値データの変更

ディメンション・ラインで、数値データを変更したり、複数の数値データを追加す ることができます。

#### 手順

数値データを1つ以上選択して表示します。

- 1 つの数値データを表示するには、数値データ見出し領域にその数値データをド ラッグします。
- クロス集計で、同じ親からの複数の数値データを表示するには、2 つの列見出しの間にある強調表示された領域に、"数値データ"フォルダーから各数値データを ドラッグします。

この方法を使用すれば、数値データの順序を変更できます。

 クロス集計にすべての数値データを表示するには、行見出し領域または列見出し 領域に"数値データ"フォルダーをドラッグします。

#### ディメンション表示ツールバーを使用した数値データの変更

ディメンション表示ツールバーから、数値データを変更することができます。

#### 手順

- 1. ディメンションの表示の"数値データ"フォルダーの数値データをクリックしま す。
- 2. ディメンションの表示ツールバーの「数値データの置換」ボタンをクリックしま す。

ディメンションの表示ツールバーがディメンションの表示に表示されない場合、 ディメンションの表示の下を右クリックし、「ツールバーの表示」をクリックし ます。

### PDF ビューアー

IBM Cognos PowerPlay の管理者は、PDF 形式のレポートに使用するビューアー のタイプとして、IBM Cognos Viewer または IBM Cognos PowerPlay Studio Report Viewer のいずれかを設定します。どちらのビューアーでも、ドリルスルー 機能やレポートを PowerPlay で開く機能などのレポート・オプションにアクセス できます。デフォルトの設定は IBM Cognos Viewer です。このビューアーのイン ターフェースは、IBM Cognos の他の Studio/Authoring ツールの PDF 出力を表 示するためのビューアーと整合性があります。もう一方のオプションである IBM Cognos PowerPlay Studio Report Viewer は、IBM Cognos Series 7 PowerPlay Web Viewer と同様の外観です。

レポート作成者がレポートを発行するときに選択した実行オプションによっては、 レポートの情報をカスタマイズできる場合があります。たとえばレポート作成者 は、レポートを特定のカテゴリーでフィルターしたり、数値データを変更したりす るプロンプト・オプションを用意できます。

レポートをさらに検討する場合は、情報を印刷したり、PowerPlay Studioでレポートを開いたりできます。

### レポート内容のカスタマイズ

レポートの作成方法によっては、レポートの情報をカスタマイズできる場合があり ます。

次のような項目を選択できる場合があります。

- ・ ディメンション
- 行および列の内容
- ゼロ消去
- 短い見出し
- 通貨および通貨書式

### 手順

- 1. PowerPlay レポートを PDF 形式で開きます。
- 「レポートの変更」ページでプロンプトを使用して情報を選択し、「OK」をク リックします。

レポートがすでに開いている場合は、「レポート設定の変更」ボタン **「** 使用するとプロンプトに戻ることができます。

### タスクの結果

プロンプトにディメンションが含まれている場合は、「レポートの変更」ページの

「ディメンションのリセット」ボタン 🎑 を使用すると、すべてのディメンショ ンからすべてのフィルターを簡単に削除できます。

### ページのレイヤーの表示

IBM Cognos PowerPlay Client で作成したレポートには、レイヤーを使用して、さ まざまなカテゴリーの情報を含めることができます。レポート・ビューで PDF レ ポートを表示すると、各レイヤーが個別のページとして表示されます。

PDF 形式のレポートをエクスポートすると、レイヤー・ビューを表示できます。同様に、管理者の設定によっては、レポートの各カテゴリーに関する説明を表示できる場合や、関連するレポートにドリルスルーして詳細情報を表示できる場合があります。

手順

レポートの次のページにスクロールします。

タスクの結果

次のレイヤーの内容を表示するページが表示されます。

### レポートの検討

データをさらに検討したり、レポートを変更したりする場合は、IBM Cognos PowerPlay Studio Explorer でレポートを開くことができます。

### 手順

次のいずれかを行います。

- IBM Cognos Viewer で、「PowerPlay Studio」ボタン をクリックします。
- IBM Cognos PowerPlay Studio Viewer で、「Explore」ボタン いのでの「Explore」ボタン をクリックします。

# レポートの管理

レポートを 1 つ以上作成したら、自分自身や他のユーザーのためにレポートを管理 できます。IBM Cognos Analytics ポータルでは、以下の作業を実行します。

- レポートまたはレポートのグループが指定した時間に実行されるようにスケジュ ールする
- 他のユーザーにレポートを配布する
- レポートを印刷する
- レポートの実行時に使用する言語を選択する
- プロンプト値を設定する
- レポートの履歴を管理する
- レポートの異なるバージョンを管理する
- レポート・ビューを作成する

これらのタスクの実行方法については、「IBM Cognos Analytics Getting Started Guide」を参照してください。

# 第2章 データの閲覧

IBM Cognos PowerPlay を使用して、分析に必要な特定のカテゴリーや数値データ を検索したり、詳細なデータへのドリルダウンや概要データへのドリルアップを行 ってデータを検討したりすることができます。また、データにフィルターをかける ことで、必要なデータのみを取り出すこともできます。さらに細かな検討を行う場 合は、親カテゴリー内に子カテゴリーをネストしたり、算出式を追加して、必要な 情報のみを表示できます。ドリルスルー・オプションを使用すると、別のキューブ やレポート、データ・ソースにアクセスすることができます。

### 特定のディメンションまたは数値データの検索

現在のレポートやキューブを検索して、データの特定のカテゴリー、ディメンション、または数値データを見つけることができます。

複雑で大規模なディメンションで、検索を使って特定のアイテムを検索することに より、分析に必要な時間が大幅に短縮される可能性があります。現在のレポートを 検索する場合、IBM Cognos PowerPlay では、現在表示されているデータが検索さ れます。キューブを検索する場合、PowerPlay では、キューブにあるすべてのデー タが検索されます。

検索結果には、カテゴリー名と完全なパスが表示されます。たとえば、キューブで" スター・ライト"を検索すると、次の結果が表示されます。

- カテゴリー: スター・ライト
- パス: 製品/キャンプ用品/テント

### 手順

- 1. 「ヘルプ」ボタンの横の矢印をクリックして、「検索」をクリックします。
- 2. 検索条件を指定して、「検索」をクリックします。
- 3. 「検索結果」のリストで、目的の項目を示すカテゴリーをクリックし、次のいず れかのオプションを選択します。
  - 「移動」リンクをクリックして、現在のレポート内にあるカテゴリーのデー タを取り出して確認します。
  - 「フィルター」をクリックして、返されたカテゴリーでレポートにフィルタ ーをかけます。
  - 「行の置換」をクリックして、返されたカテゴリーをレポートの行に表示します。
  - 「列の置換」をクリックして、返されたカテゴリーをレポートの列に表示します。

### シナリオ・ディメンション

シナリオ・ディメンションは、さまざまなシナリオを表すカテゴリーが含まれてい るディメンションです。たとえば、財務データを分析するときには、計画値、予算 値、実績値や最善のケースと最悪のケースの値など、複数の値のセットを同時に分 析できます。

標準ディメンションとは異なり、シナリオ・ディメンションは 1 つのルート・カテ ゴリーに自動集計しても役に立たないため、そのような集計は行われません。

シナリオ・ディメンションにはシナリオ・ディメンションのアイコン ざれるため、他のディメンションと区別できます。シナリオ・ディメンションは Transformer のモデル作成者が定義します。モデル作成者がシナリオ・ディメンシ ョンにデフォルト・カテゴリーを指定した場合、デフォルトのフィルターとして、 そのデフォルト・カテゴリーがディメンション・ラインに表示されます。

### ドリルダウンとドリルアップ

ドリルアップあるいはドリルダウンすることで、さまざまな側面からビジネスを検 討したり、情報のレベルを切り替えることができます。

たとえば、製品系列全体の販売金額を調査した後に、その製品系列の各製品の販売 金額を調査できます。各製品の販売金額を閲覧した後は、ドリルアップして製品系 列に戻ることができます。階層構造に慣れてくると、同時に複数のレベルにドリル アップしたり、ドリルダウンできるようになります。ビジネスの1つの側面が全体 にどのように影響するかを調査するには、ディメンションの最下位レベル・カテゴ リーまでドリルダウンします。

使用できるドリルアップとドリルダウンの機能は、選択した表示タイプによって異 なります。

#### ドリルダウンします。

次のいずれかの方法で、カテゴリー・レベルを変更します。

- 下位レベルにあるカテゴリーにドリルダウンするには、ディメンション・ライン
   で、下位レベルにあるカテゴリーをクリックします。
- 1回に1つのカテゴリー・レベルをドリルダウンするには、希望するカテゴリー・レベルに到達するまで、行か列の見出しリンクをクリックします。
- すべてのカテゴリーで1レベル・ドリルダウンするには、列か行のレベル・セレクター領域を右クリックして、「1レベル下へ」をクリックします。
- クロス集計表示の特定のデータ値に関連づけられているカテゴリーに直接ドリル ダウンするには、そのデータ値をダブルクリックします。

#### ドリルアップします。

次のいずれかの方法で、カテゴリー・レベルを変更します。

- ディメンション・ラインで、上位レベルのカテゴリーをクリックします。
- すべてのカテゴリーで1レベル・ドリルアップするには、列か行のレベル・セレクター領域を右クリックして、「1レベル上へ」をクリックします。

 親の行および列のカテゴリーにドリルアップするには、行と列の合計が交差する 場所にあるデータ値をダブルクリックします。

### カテゴリーへの複数のパス

IBM Cognos Transformer のモデル作成者は、同じカテゴリーへの複数のパスをデ ィメンション内に定義できます。主ドリルダウン・パスは、ディメンション内のメ イン・パスです。代替ドリルダウン・パスは、同じカテゴリーに対する同一ディメ ンション内の別のパスです。

たとえば、年度ディメンションのメイン・パスを年にして、代替パスを月にすることができます。両方のパスが日レベルに収束されます。

### 制限されたデータ値

IBM Cognos Transformer のモデル作成者は、財務関係の申請書類などの機密デー タを含むキューブのセキュリティー規則を構築できます。適切なセキュリティー・ アクセス権を持たないカテゴリー・レベルを表示しようとした場合、データ値では なく「アクセスが拒否されました」というメッセージが表示されます。カテゴリー にドリルダウンすると、制限されたデータ値よりも下位のレベルを表示できませ ん。制限されたデータ値を含むカテゴリーの集計で、「アクセスが拒否されまし た」というメッセージが表示される場合もあります。

### データのフィルター

フィルターを使用すると、ディメンションの特定レベルに情報を限定し、選択した 情報のみを強調して、レポートの焦点を変えることができます。

ビジネスのある側面が全体に与える影響を調査する場合は、ディメンション内の最 下位レベルのカテゴリーをフィルターします。たとえば、すべての製品ラインのす べての地域の収益を示すレポートから始めるとします。ディメンション・ラインを 使用して"アメリカ"の収益を表示するために、"販売地域"ディメンションでレポート にフィルターをかけます。

### 手順

ディメンション・ラインで、フィルターをかけるカテゴリーをクリックします。 または、ディメンションの表示でカテゴリーを右クリックし、「フィルター」をク リックします。

すべてのディメンションの全フィルターを削除するには、「リセット」ボタン をクリックします。

## カテゴリーのネスト

レポートを開くと、行と列に、ディメンション・ラインの最初の 2 つのディメンションのカテゴリーが表示されます。

レポートでより詳細な表示を行うには、現在のディメンション、別のディメンション、および数値データから、ネストされたカテゴリーを追加します。ネストされた レポートには、ネストされたカテゴリーの合計情報が表示されます。 たとえば、列に"製品"カテゴリー、行に"日付"カテゴリーを表示するレポートがある とします。このレポートに、ネスト・カテゴリーとして四半期を追加できます。次 のレポートには、各四半期の集計値が表示されています。

Rias	evenue values	<u>Camping</u> Equipment	<u>Golf</u> Equipment	Mountaineering Equipment	<u>Outdoor</u> Protection	Personal Accessories	Products
<u>2006</u>	<u>2006 Q</u> <u>1</u>	115,969,290	58,379,261	36,539,206	2,410,113	131,722,288	345,020,158
	<u>2006 Q</u> 2	131,594,512	62,467,714	42,683,784	2,632,786	153,205,078	392,583,874
	<u>2006 Q</u> <u>3</u>	130,979,047	56,040,116	41,443,786	2,621,541	147,252,623	378,337,113
	<u>2006 Q</u> <u>4</u>	122,376,880	54,485,598	40,379,738	2,694,775	162,054,064	381,991,055
	2006	500,919,729	231,372,689	161,046,514	10,359,215	594,234,053	1,497,932,200
<u>2007</u>	<u>2007 Q</u> <u>1</u>	145,539,940	81,537,354	59,768,436	1,879,174	184,020,708	472,745,612
	2007.0 2	153,809,380	69,081,676	60,116,560	1,887,360	194,759,998	479,654,974
	<u>2007 Q</u> <u>3</u>	54,031,962	25,129,545	21,643,417	706,857	65,032,264	166,544,045
	<u>2007 Q</u> <u>4</u>	0	0	0	0	0	0
	2007	353,381,282	175,748,575	141,528,413	4,473,391	443,812,970	1,118,944,631
Years	5	1,590,730,027	729,044,204	409,715,631	76,002,938	1,886,038,235	4,691,531,035

図 2. ネストされたカテゴリーがあるレポート

### 手順

ディメンション・ラインでネストするカテゴリーを探し、行のネスト・レベル領域 または列のネスト・レベル領域に追加します。 ネスト・カテゴリーのレベル・セレ クター領域に表示される右クリック・メニューを使用して、ネスト・カテゴリーを 削除できます。

### 行、列、およびネスト・レベルの移動またはコピー

拡張インターフェースで行、列、またはネスト・レベルを移動する、クロス集計デ ータの表示を簡単に変更できます。

### 手順

特定のレベルを移動するかコピーするかを選択します。

- レベルを移動するには、ネスト・レベルのレベル・セレクター領域を、現在軸またはもう一方の軸のターゲット・レベル領域までドラッグします。
- レベルをコピーするには、ネスト・レベルのレベル・セレクター領域を、Ctrl キ ーを押しながら現在軸またはもう一方の軸のターゲット・レベル領域までドラッ グします。

ターゲット・レベル領域は、軸の外枠上で強調表示されます。

### タスクの結果

ネスト・カテゴリーのレベル・セレクター領域に表示される右クリック・メニュー を使用して、ネスト・カテゴリーを削除できます。 関連タスク:

44 ページの『レポートでの複数の数値データの表示』 レポートに複数の数値データを表示できます。

### カテゴリーのサブセットの作成

指定した条件に基づいてカテゴリーのサブセットを定義できます。サブセットを作 成すると、データの特定の要素を取り出し、検討および分析することができます。

サブセットの作成方法としては、検索条件や数値データ値に基づく方法と、カテゴ リーを個別選択する方法があります。クロス集計から直接ディメンションのサブセ ットを作成することもできます。サブセットを作成すると、サブセットの作成に使 用したディメンション内のディメンションの表示にサブセットが表示されます。

サブセットが動的な場合、キューブ・データの変更がサブセット内のカテゴリーに 影響する際は必ず更新されます。たとえば、ユーザーがキャンプ用品を販売する会 社の地区マネージャーで、担当地区における環境に優しい製品の売上を分析する場 合は、製品名に"エコ"という文字が含まれる全製品を検索条件にしてサブセットを作 成します。検索基準を満たす製品をキューブに追加すると、その製品はサブセット に動的に追加されます。

カテゴリーを個々に選択してサブセットを作成する場合、複数のレベルのカテゴリ ーをサブセットに含めることができますが、選択できるカテゴリーは同じディメン ションのカテゴリーのみです。サブセットを導出したディメンション内に、そのサ ブセットをネストすることはできません。また、同じディメンションから導出した サブセットの場合、一方のサブセットにもう一方のサブセットをネストすることは できません。

サブセットを使用するレポートからドリルスルーするとき、サブセット値はターゲ ット・レポートに適用されません。

# 検索条件または数値データ値を使用したサブセットの作成

検索条件または数値データ値を使ってサブセットを作成することができます。

### 手順

- 1. 「カスタム・サブセット」ボタン 🙆 をクリックします。
- 2. サブセットの名前を入力します。
- 3. サブセットを作成するディメンションを選択します。
- 4. 検索条件または数値データ値を定義します。
  - 検索条件を定義するには、「検索基準で規則を定義」、「次へ」とにクリックします。「追加」をクリックし、検索文字列、最初に検索するカテゴリー、カテゴリー・レベルの範囲を指定して検索定義を作成します。「OK」をクリックします。

検索文字列は、大文字と小文字が区別されません。

複数の検索定義を定義できます。「名前検索によるカスタム・サブセットの 作成」ダイアログ・ボックスでは、既存の定義の編集や削除も可能です。

検索定義の定義が終わったら、「次へ」をクリックします。

- 数値データ値を定義するには、「数データで規則を定義」、「次へ」とクリックします。規則の基礎にする数値データ値、返す値、カテゴリー、検索するカテゴリー・レベルの範囲を選択して、数値データ値を定義します。また、必要に応じてディメンション・フィルターを適用することもできます。 数値データ値の定義が終わったら、「次へ」をクリックします。
- 5. 検索結果を確認します。

サブセットから検索結果を削除するには、結果をクリックし、「削除」をクリッ クします。検索結果をサブセットに返すには、結果をクリックし、「再有効化」 をクリックします。

サブセットの規則に基づいて結果セットで返されるカテゴリーは動的です。デー タ・ソースに変更が生じた場合、返された結果セットにはこれらの変更内容が反

映され、双眼鏡のアイコン 🜆 で示されます。

 結果セットで返されていないカテゴリーを追加する場合は、「使用できるカテゴ リー」リストでカテゴリーを選択し、「カスタム・サブセット」ボタンをクリッ クします。

これらのカテゴリーは静的です。サブセットの規則を変更した場合や、データ・ ソースに変更が生じて別の結果セットが返された場合、これらの追加カテゴリー はサブセットに含まれたまま、削除しない限り残されます。

7. 「終了」をクリックします。

#### タスクの結果

ディメンションの表示に、サブセットが新しいカテゴリーとして表示されます。

サブセットを選択したときに右クリックで表示されるメニューのコマンドから、サ ブセットの編集、削除、名前変更を実行できます。

### カテゴリー選択を使用したサブセットの作成

カテゴリー選択を使ってサブセットを作成することができます。

#### 手順

- 1. 「カスタム・サブセット」ボタン 🙆 をクリックします。
- 2. サブセットの名前を入力します。
- 3. サブセットを作成するディメンションを選択します。
- 4. 「カテゴリーを選択」、「次へ」とクリックします。
- 5. サブセットに表示するカテゴリーを選択し、「カスタム・サブセットに追加」ボ タンをクリックします。
- 6. 「終了」をクリックします。

### タスクの結果

ディメンションの表示に、サブセットが新しいカテゴリーとして表示されます。カ テゴリーは静的であるため、削除するまでサブセットに含まれたままです。

サブセットを選択したときに右クリックで表示されるメニューのコマンドから、サ ブセットの編集、削除、名前変更を実行できます。

### レポートでのディメンションを使用したサブセットの作成

レポートでディメンションを使ってサブセットを作成することができます。

#### 手順

- 1. サブセットに含める行や列を選択します。
- 2. 選択した行や列の見出し領域を右クリックして、「カスタム・サブセットの作 成」をクリックします。

#### タスクの結果

サブセットを選択したときに右クリックで表示されるメニューのコマンドから、サ ブセットの編集、削除、名前変更を実行できます。

### 上位カテゴリーと下位カテゴリーを持つサブセットの作成

特定の数値データの最上位または最下位の値を持つカテゴリーが含まれるサブセットを作成できます。

ユーザーは、上位 10 や下位 25 などのように、サブセットに含めるカテゴリーの 数を動的に選択できます

### 手順

- 1. 「カスタム・サブセット」ボタン 6 をクリックします。
- サブセット名を入力し、サブセットの基礎として使用するディメンションを選択して、「数値データ値で規則を定義」をクリックし、「次へ」をクリックします。
- 3. 次のようにオプションを設定し、「次へ」をクリックします。
  - 上(降順でソート)の値を含めるか、それとも下位(昇順でソート)の値を含めるかを指定するオプションをクリックします。
  - サブセット定義に含めるカテゴリーの数を入力します。
  - サブセット定義の開始点として必要なディメンション・レベルを選択し、適切な検索範囲オプションを選択します。
- 4. ウィザードの最後まで進み、「終了」をクリックします。
- 5. ディメンション・ツリーが更新されて新しいサブセットが含まれており、フィル ターされたレベルがそれに基づいて変更されていることを確認します。

### サブセットのコピーの作成

静的サブセットのコピーを作成できます。コピーを作成したら、必要に応じて変更 できます。たとえば、コピーを使用して複数の類似したサブセットを作成できま す。

### 始める前に

静的サブセットのコピーを作成するには拡張インターフェースを使用する必要があ ります。

#### 手順

ディメンションの表示でサブセットを右クリックし、「複製」をクリックします。

#### タスクの結果

サブセットのコピーが作成され、「<元のサブセット名>の複製」という名前が付け られます。

コピーを選択し、右クリックで表示されるメニューの「編集」コマンドを使用して、そのコピーを編集できます。

### サブセット内のカテゴリーの追加または削除

サブセットに追加できるカテゴリーは、サブセットと同じディメンションからのカ テゴリーか、サブセットが最初に作成された階層からのカテゴリーです。また、カ テゴリーは階層のルートであってはなりません。

### サブセットにカテゴリーを追加する

サブセットを編集してカテゴリーを追加できます。

### 手順

- 1. ディメンションの表示でサブセットを右クリックし、「編集」をクリックしま す。
- 「使用できるカテゴリー」リストで、サブセットに含めるカテゴリーを選択します。
- 3. 「結果セット」リストでカテゴリーを選択します。

追加したカテゴリーは「結果セット」リストで選択したカテゴリーの上に表示されます。

- 4. 「カスタム・サブセットに追加」ボタンをクリックし、「使用できるカテゴリ ー」リストから「結果セット」リストにカテゴリーを移動します。
- 5. 「終了」をクリックします。

#### タスクの結果

カテゴリーがサブセットに追加されます。

### サブセットからカテゴリーを削除する

サブセットを編集してカテゴリーを削除できます。

#### 手順

- ディメンションの表示でサブセットを右クリックし、「編集」をクリックします。
- 2. 「結果セット」リストでカテゴリーを選択します。
- 「カスタム・サブセットから削除」ボタンをクリックし、「結果セット」リスト から「使用できるカテゴリー」リストにカテゴリーを移動します。
- 4. 「終了」をクリックします。

#### タスクの結果

カテゴリーがサブセットから削除されます。

### サブセット定義の詳細表示

ディメンション・フィルター、クロス集計行、またはクロス集計列にサブセットが 含まれている場合、「説明」ウィンドウには、アイコンの隣にサブセット定義の簡 単な説明が表示されます。

たとえば、サブセット名のみでなく、サブセットに含まれているカテゴリーが、検 索可能な文字列、範囲、または contains 式の形式でリスト表示されます。開始点と 範囲も表示される場合があります。

次の内容は「説明」ウィンドウに表示されません。

- 静的なピック・リストのカテゴリー
- 明示的に含まれているカテゴリー、または結果が破棄されたカテゴリー
- 数値データによるサブセット内の最上位 (ルート) レベルのディメンション

#### 手順

1. クロス集計の行、列、またはセルを右クリックし、「説明」をクリックします。

2. 必要に応じてスクロールし、サブセットの詳細な説明を確認します。

### 合計または小計の非表示

クロス集計表示の各レポートでは、行と列に各カテゴリーの合計値が表示されま す。これと同様に、IBM Cognos PowerPlay では、クロス集計表示を使用したレポ ートにネスト・カテゴリーを追加すると、子カテゴリーの各レベルの小計行または 小計列が追加されます。このため、カテゴリーの各レベルの値が次のレベルにどの ように集計されるかを確認できます。

不要な場合は、合計や小計を非表示にできます。

### 始める前に

合計または小計を非表示にできるのは、クロス集計表示またはインデント・クロス 集計表示を使用しているレポートのみです。

### 手順

- 1. 合計行または小計行の 1 つを右クリックするか、合計列または小計列の 1 つを 右クリックし、「非表示/表示」をクリックします。
- 2. 「合計を表示」チェック・ボックスをオフにして「OK」をクリックします。

### 計算の追加

行または列を結合するカスタム算出式を作成して、新しい項目を作成できます。

次の種類の計算を実行できます。

- 算術演算: 加算、減算、乗算、除算、べき乗
- 割合: パーセント、基底値に対するパーセント、累積パーセント、成長率
- 分析: 平均值、中央值、最大值、最小值、百分位、集計
- 財務: 予測、累積

たとえば、レポートに四半期を表示する場合は、各四半期の累積パーセンテージを 表示する新しい項目を追加できます。新しい算出カテゴリーを追加した後に、既存 の算出カテゴリーを使って別の算出式を追加できます。

#### 手順

- 1. 計算を実行する行見出しまたは列見出しを選択し、「計算」ボタン 🖾 をクリックします。
- 2. 「処理タイプ」ボックスで計算の種類を選択します。
- 3. 「処理」ボックスで計算を選択します。
- 4. 「算出式名」ボックスに算出式の名前を入力します。
- 5. 「含まれるカテゴリー」ボックスで、計算で使用するカテゴリーを選択します。

算出式にゼロ消去カテゴリーを含めるか除外するかを決めてください。ゼロ値が 算出式に含まれているにもかかわらず、ゼロ値を消去すると、レポートの他の利 用者が混乱する場合があります。

- 9. 算出式の中で定数を使用する場合は、「数値」の横のチェック・ボックスを選択して、定数を入力します。
- 7. 算出式を移動する場合は、「移動可能」チェック・ボックスをオンにします。
- 8. 「**OK**」をクリックします。

### タスクの結果

表示領域に新しい算出カテゴリーが斜体で表示されます。 関連タスク:

19 ページの『算出式の移動』 拡張インターフェースを使用している場合、算出式を軸上の任意の場所にドラッグ できます。

### 算出式の編集

レポートの行または列として挿入した計算を編集できます。また、算出式の名前を 変更することもできます。

たとえば、ある年度に対する各四半期の売上高を累積パーセンテージで示す算出式 を作成したとします。レポートをより詳しいものにするために、算出式を変更し て、各月の売上高を表示することができます。

標準インターフェースでは、既存の算出式を変更できません。算出式を削除してか ら、新しい定義を使用して作成し直す必要があります。

### 手順

- 1. 算出式の行見出しまたは列見出しを右クリックし、「算出式の編集」をクリック します。
- 2. 算出式の項目を編集し、「OK」をクリックします。

### 算出式の移動

拡張インターフェースを使用している場合、算出式を軸上の任意の場所にドラッグ できます。

クロス集計の上部または左側に算出式を配置することもできます。算出式を移動し ても、クロス集計の同じディメンション内で作業を続けている限り、算出式は指定 の位置に固定されたままです。

算出式の演算項目の親でないカテゴリーに算出式を移動すると、演算項目の値はゼロに設定されます。たとえば、"キャンプ用品"の親でないカテゴリーに"キャンプ用品+1"という算出式を移動すると、すべての行で1の値が生成されます。これは、 "キャンプ用品"の値がゼロに設定されたためです。算出式の演算項目の直接の先祖でないカテゴリーにディメンション・バー・フィルターを設定したときも、演算項目はゼロに設定されます。

時間ディメンションの算出式は移動することができますが、時間カテゴリーの算出 式は移動できません。

クロス集計で算出式をドラッグする場合は、次の制約が適用されます。

- 算出式を移動可能として指定する必要がある
- 算出式は同じディメンション内でのみ移動できる
- 予測計算とランク付けは移動できない

### 始める前に

デフォルトでは算出式は移動できませんが、算出式の作成時に設定を有効にすれば 移動できます。

#### 手順

1. 算出式の行見出しまたは列見出しを右クリックし、「算出式の編集」をクリック します。

- 「計算式」ダイアログ・ボックスで「移動可能」、「OK」の順にクリックします。
- 3. 算出式をクリックし、レポート内の新しい場所にドラッグします。

#### タスクの結果

クロス集計が変更されると、移動可能な算出式も関連するカテゴリーに従って移動 します。カテゴリーをクロス集計内に表示でき、ディメンション階層が同一のまま であれば、移動可能な計算式はこのカテゴリーの隣にあります。移動できない算出 式とは異なり、算出式の定義が変更されても算出式の場所は変更されません。

### 予測方法

ご利用条件:予測関数で使用できる予測方法は、基になるデータ・ソースから取得される過去の情報の統計的な分析に基づいています。予測値の精度は、さまざまな変数の影響を受けます。このような変数には、基になる過去のデータの精度や、外部イベントの精度などが含まれます。また外部イベントは、基になる過去のデータを予測で使用するときの妥当性に影響を与えます。予測関数は、予測対象となる数値データの将来値を算出するためにのみ使用することを前提としており、複雑な財務またはビジネスの方向性を決定する場合の基礎として使用することは前提としていません。

IBM では、実際に算出される将来値の精度、および特定の結果についていかなる保 証も行いません。予測関数とそれによって生成されたデータは、ユーザーの責任で 使用してください。予測関数にエラーが含まれていたり、予測関数で不正確な計算 が行われる可能性もあります。予測関数およびそのドキュメントは「現状のまま」 の状態を条件に提供されます。予測関数の使用およびそれに基づくデータ結果の解 釈が原因となって、直接的、間接的、偶発的、懲罰的、結果的に生じたあらゆる損 害に対して、いかなる場合においても IBM は一切法的責任を負いません。 関連概念:

53 ページの『第 5 章 予測の式』

趨勢法、成長法、および自己回帰法のいずれかの時系列予測方法を使用して、過去 のデータに基づいてビジネスの将来の業績を予測できます。

### 趨勢法 (線形または直線)

趨勢予測法は、線形の回帰方法に基づいて時系列予測を行う方法です。趨勢予測 は、ビジネスの推進要因が線形で数値データに影響を与える場合に、予測の信頼性 が最も高くなります。たとえば、過去の収益が一定の割合で増加または減少してい る場合、その効果は線形です。

信頼性が高い予測をするためには、過去のデータの複線グラフが線形であるか線形 に近い必要があります。たとえば、過去の 4 四半期の収益に基づいて、将来の 2 四半期の収益を予測する場合、過去の四半期ごとの複線グラフが線形であるか線形 に近いときは、趨勢法の予測が最も信頼性の高い結果となります。

趨勢予測法は、過去のデータで 2 つのデータ値のみが 2 つの間を表す場合に使用 します。

### 成長法 (曲線形または曲線)

成長予測法は、指数回帰方法に基づいて時系列予測を行う方法です。成長予測法の 信頼性が最も高くなるのは、ビジネスの推進要因によって、数値データが指数関数 的に影響を受ける場合です。たとえば、過去の収益が、しだいに高い割合で増加ま たは減少している場合、その効果は幾何級数的です。

精度の高い予測をするためには、過去のデータの複線グラフが幾何級数的でなけれ ばなりません。例えば、売れ筋製品の投入に伴って収益が急激に増加している場合 は、趨勢法よりも成長予測のほうが信頼性の高い結果となります。同様に、販売員 をさらに 2 名雇用する場合、収益増が最も見込める製品ラインを成長予測を使用し て判断すると、新しい販売員を効率的に配置することができます。

### 自己回帰法 (季節性)

自己回帰予測法は、自己相関に基づいて時系列予測を行う方法です。自己回帰予測 は、過去のデータに含まれている線形、非線形、および季節上の変動を検出し、こ れらの傾向を将来の傾向に反映させます。自己回帰予測の信頼性が最も高くなるの は、ビジネスの推進要因が季節的な変動によって影響を受ける場合です。

時間と収益の複線グラフは、季節的な変化を反映して上下に変動する場合がありま す。たとえば、売れ筋商品の投入に伴って収益が急激に増加している一方で、商品 の売上が季節に依存する場合は、成長法よりも自己回帰予測のほうが信頼性の高い 結果となります。

自己回帰法は、過去のデータが多数の区分に分かれた期間 (たとえば、24 カ月を超 える月次期間) を表している場合に、その間に季節的な変動が発生する可能性があ るときに使用します。

クロス集計で時間の複数のレベルをネストしている場合、 IBM Cognos PowerPlay では、最上位レベルの時期のみに関する予測が生成されます。たとえば、収益に対 して年の子として四半期をネストしている場合は、予測計算を挿入すると PowerPlay では年レベルのみの予測が生成されます。四半期レベルの予測を生成す るには、予測を生成する前に年レベルを削除します。

クロス集計にランク付けを適用している場合は、PowerPlay でリクエストした予測 が作成されますが、予測はランク付けに反映されません。

クロス集計で通貨を変換している場合、PowerPlay では、変換後の通貨値に基づいて、リクエストした予測が作成されます。

### 予測の作成

趨勢法、成長法、および自己回帰法のいずれかの時系列予測方法を使用して、過去 のデータに基づいてビジネスの将来の業績を予測できます。

算出値は「na」、または指数表記 (たとえば 1.7976931348623158e+308) で表示でき ます。値が「na」と表示される場合、IBM Cognos PowerPlay で予測の基準となる 適切な値が見つからないことを意味します。値が指数表記で表示されるのは、計算 結果が 16 桁以上になったためです。

### 手順

- 1. クロス集計表示またはグラフィック表示の時間カテゴリーを右クリックして、 「計算を挿入」をクリックします。
- 2. 「処理タイプ」ボックスで「財務計算」を選択します。
- 3. 「予測方法」リストから、使用する予測方法を選択します。
- 4. 「予測期間」ボックスに、予測する期間の数を入力します。
- 5. 「**OK**」をクリックします。

#### タスクの結果

#### ヒント

- 計算のラベルを変更するには、ラベルを右クリックし、「計算の名前を変更」を クリックします。「算出式名」ボックスに新しいラベルを入力し、「OK」をク リックします。
- 使用された予測方法を表示するには、ラベルを右クリックして、「説明」をクリックします。

### デザイン・モードでの作業

クロス集計では、データを表示しないでレポートを作成できます。

多くのレベルがある大きなキューブを検討している場合などに、このオプションを 利用すると時間を節約できます。役に立つ情報が見つかった場合は、そのデータを すぐに表示できます。

「データを後で取得」オプションが有効になっているときには、ツールバーにある オプション一部を使用できません。

#### 手順

- 「表示オプション」ボタン をクリックし、「データを後で取得」をクリックします。
- 2. レポートの内容が満足できる状態になるように作業を行います。
- 3. 表示領域で「データを取得」をクリックします。

### 代替階層の分析

同じディメンションの 2 つの階層を行および列に表示するクロス集計を作成できま す。これにより、相対的なデータを取り出して詳細に分析できます。

たとえば、小売業者タイプに関する情報が含まれているレポートを作成するとしま す。レポートの"小売業者"ディメンションには、小売業者の各タイプのカテゴリー と、地域別にベンダーを表す代替階層カテゴリーを指定します。個々の小売業者 は、"小売業者"ディメンションの最下層レベルになります。代替階層では、個々のベ ンダーも最下層レベルになります。小売業者の所在地を行とし小売業者タイプを列 とする代替階層があるクロス集計を作成すると、さまざまな地域の小売業者タイプ の相対的な実績を速やかに分析できます。

E GO8_1 ⊕- C Years	Id dd Years	<ul> <li>Products &gt; 5</li> </ul>	Sales regions 🤊	🔹 Retailers 👻	Margin range	MEASURE:	5 -		ÞÞ	) T. C
Products     Sales regions     Products     Retailers     Products	Revenue as values	<u>Department</u> <u>Store</u>	<u>Direct</u> <u>Marketing</u>	Equipment Rental Store	Eyewear Store	<u>Golf Shop</u>	<u>Outdoors</u> Shop	Sports Store	<u>Warehouse</u> <u>Store</u>	Retailers
Equipment Rental Store	Americas	266,521,780	15,732,079	18,059,797	67,542,816	118,414,693	453,316,957	408,184,066	91,961,447	1,439,733,635
Eyewear Store     Golf Shop	<u>Asia</u> <u>Pacific</u>	243,699,460	26,525,543	17,538,762	45,787,386	181,249,652	383,535,559	220,899,540	64,627,869	1,183,863,771
<ul> <li>Outdoors Shop</li> <li>Sports Store</li> </ul>	Central Europe	189,583,776	17,360,066	8,569,998	50,878,557	107,823,061	321,140,937	291,220,495	54,718,997	1,041,295,887
⊕	Northern Europe	95,270,977	9,794,056	3,062,368	37,527,416	27,555,448	162,311,348	161,230,417	34,079,830	530,831,860
Margin range     Measures	Southern Europe	86,866,665	5,542,560	2,711,788	7,819,382	58,759,886	173,698,124	140,707,625	19,699,852	495,805,882
	By Retailer site	881,942,658	74,954,304	49,942,713	209,555,557	493,802,740	1,494,002,925	1,222,242,143	265,087,995	4,691,531,035

図 3. 代替階層があるレポート

#### 手順

- 1. ディメンションの表示で、フィルターするディメンション・カテゴリーを右クリ ックし、「行の置換」をクリックします。
- 2. ディメンションの代替階層カテゴリーを右クリックし、「列の置換」をクリック します。

### タスクの結果

追加された代替階層フィルターを反映して列の見出しと値が変更されます。

### グラフと表の同時表示

クロス集計とグラフを 1 つのブラウザー・ウィンドウに同時に表示することによっ て、プレゼンテーションと分析の作業効率が向上します。

分割表示では、両方の表示に同じデータが使用され、一方のビューでドリルやフィ ルターを行っても両方の表示が同期されます。分割表示は、PDF エクスポート、お よび IBM Cognos PowerPlay で作成したブックマークに保存できます。また、レ ポートをポータルに発行することによって分割表示を保存することもできます。

### 手順

- 1. 「表示オプション」ボタン 上三・ をクリックします。
- 2. 「表示オプション」メニューの「分割表示」をクリックします。

### タスクの結果

デフォルトでは、棒グラフとクロス集計が表示されます。ツールバーのクロス集計 およびグラフのフライアウト・メニューを使用して、クロス集計またはグラフの表 示を変更できます。

### 説明の表示

検討している情報の説明を表示できます。説明には、現在表示されているステータ スに関する一般的な情報、および Transformer のモデル作成者がキューブに追加し たデータの情報が含まれています。 IBM Cognos PowerPlay Studio Viewer では、レポートの行と列の見出しに関する 説明を表示できます。 PowerPlay Studio Explorer では、消去設定の詳細や、レポ ートにユーザー設定ハイライトが含まれているかどうかなどの追加情報が説明に表 示されます。

#### **PowerPlay Studio Explorer** での説明の表示

表示領域全体または個々のセルのどちらの説明を表示するかを選択します。

- 表示領域全体の説明を表示するには、ヘルプ・ボタンの右にある矢印をクリックし、「説明」をクリックします。
- 表示領域にある個々のセルに関する説明を表示するには、セルを右クリックし、 「説明」をクリックします。

#### **PowerPlay Studio Viewer** での説明の表示

Adobe Acrobat Reader で、説明を表示する行または列の見出しにポインターを置き、見出しをクリックします。

### PowerPlay Studio との間のドリルスルー

IBM Cognos Analytics のドリルスルー定義を使用して、PowerPlay Studio から、 IBM Cognos Analytics レポートに移動したり、PowerCube を含むパッケージに移 動したりすることができます。

また、別のレポートまたは別の PowerCube パッケージから、PowerCube を含む パッケージにドリルスルーできます。IBM Cognos Analytics の Studio/Authoring ツール間のドリルスルーの詳細については、「IBM Cognos Analytics *Getting Started Guide*」を参照してください。

「販売とマーケティング (キューブ)」パッケージの次のサンプル・レポートでは、 PowerPlay Studio からのドリルスルー・リンクが表示されます。

- 利益幅と収益
- 発注方法別の収益
- 上位 20 製品ブランド

PowerPlay Studio では、ソース・レポートのディメンション・ラインで選択および フィルター適用されているセルのコンテキストを使用して、次の操作を実行できま す。

- フィルターをかけて、PowerCube の既存のレポートまたはデフォルト・ビュー
   を PowerPlay Studio で開く
- フィルターをかけて、レポートを Analysis Studio で開く
- フィルターをかけて、Query Studio、Analysis Studio、または Reporting で作 成されたレポートを実行する
- 保存されたレポートのバージョンのブックマークに移動する

定義によってレポート全体が実行される場合や、以下のターゲットにドリルスルー する場合、コンテキストはフィルターとして使用されません。

• 保存されたレポートのバージョン

実行されるレポート (関連するコンテキストをソース・レポートで選択していない場合)

ターゲット・レポートのデフォルトのプロンプト設定とドリルスルー定義に基づ き、ソース・レポートのコンテキストから値を受け取らないプロンプトが表示され ます。

注: IBM Cognos Series 7 PowerPlay では、ドリルスルー・ターゲットが定義され ていない場合または範囲外である場合、ドリルスルーのアイコンは無効になりま す。PowerPlay Studio では、他の IBM Cognos Analytics ツールと同じようにド リルスルー・アイコンは常に有効ですが、ドリルスルー・ターゲットが定義されて いない場合や範囲外である場合、ターゲットのリストは空になります。 PowerPlay 管理者がドリルスルー・オプションを使用不可に設定している場合、アイコンは表 示されません。

### 手順

- PowerCube のレポートまたはデフォルト・ビューを PowerPlay Studio で開き ます。
- 2. ドリルスルーを行うデータを選択します。
- 3. 「ドリルスルー」ボタン 妃 をクリックします。

ドリルスルー・ターゲットが1つしか定義されていない場合は、そのターゲットが開きます。複数のターゲットが定義されている場合は、「移動」ページが表示されます。

4. 使用できるターゲットのリストから、ターゲット・レポートまたは PowerCube パッケージのドリルスルー定義の名前をクリックします。

ヒント:必要な権限がある場合は、適切なコンテキストでターゲットが実行され るかどうかを、ターゲットを開く前に確認できます。「移動」ページで、「渡さ れたソース値を表示」をクリックします。

5. 必要に応じて、ターゲット・レポートのプロンプトの値を選択すると、

ターゲットが開きます。

# 第3章 データの書式設定

IBM Cognos PowerPlay には多数の書式設定オプションが用意されているため、こ れらを使用してより効果的なレポートを作成できます。たとえば、クロス集計表示 を、円グラフや折れ線グラフなどのグラフ表示に変更できます。グラフ表示では、 一般的な傾向やデータの関係が強調表示されます。ユーザー設定ハイライトの規則 では例外的なデータが強調表示されるため、成功している領域やさらなる調査が必 要な領域を瞬時に識別することができます。その他の書式設定オプションとして、 色とパターンの変更、データのランク付け、特定のカテゴリーの非表示などがあり ます。

### 表示形式

表示は、レポート・データを視覚的に表したものです。表示を変更することによって、次の操作を実行できます。

- 異なる視点からの情報の表示
- 動向の検索
- 変数の比較、差異の表示、および業績の追跡
- 複数の数値データの比較

たとえば、クロス集計表示を円グラフ表示に変更することによって、入力したデー タのデータ・セット全体に対する個々の要素の関係を表示できます。また、同じレ ポートで複数の表示形式を使用することもできます。

グラフ表示タイプで、ネストされたカテゴリーを表示すると、最下層レベルの交点 に対する個々の表示が現れます。ネストされたカテゴリーの表示を取り出して見る には、ネストされたカテゴリーのリンクをクリックします。ネストされたカテゴリ ーが存在しない場合は、表示は 1 つのみになります。

ネスト・グラフの概要情報を表示するには、「拡大」ボタン 🛐 をクリックしま す。

ヒント:レポートを元の表示に戻すには、「表示オプション」ボタンをクリックし、 「リセット」をクリックします。ブックマークを作成した場合は、最初のビューの 状態には戻りません。

### クロス集計表示

標準のクロス集計表示が表示タイプのデフォルトです。この表示は、表形式でデー タを表します。キューブの最初の2つのディメンションは、行と列を表します。

カテゴリーをネストする場合、ネストされたカテゴリーは最上位レベルのディメン ションの下にある行、または右にある列に表示されます。このレポートでは、"四半 期"レベルが"年"レベルにネストされています。

R	evenue s values	<u>Camping</u> Eguipment	<u>Golf</u> Equipment	Mountaineering Equipment	<u>Outdoor</u> Protection	Personal Accessories	Products
<u>2006</u>	2006 Q 1	115,969,290	58,379,261	36,539,206	2,410,113	131,722,288	345,020,158
	<u>2006 Q</u> <u>2</u>	131,594,512	62,467,714	42,683,784	2,632,786	153,205,078	392,583,874
	<u>2006 Q</u> <u>3</u>	130,979,047	56,040,116	41,443,786	2,621,541	147,252,623	378,337,113
	<u>2006 Q</u> <u>4</u>	122,376,880	54,485,598	40,379,738	2,694,775	162,054,064	381,991,055
	2006	500,919,729	231,372,689	161,046,514	10,359,215	594,234,053	1,497,932,200
<u>2007</u>	2007 Q 1	145,539,940	81,537,354	59,768,436	1,879,174	184,020,708	472,745,612
	2007 Q 2	153,809,380	69,081,676	60,116,560	1,887,360	194,759,998	479,654,974
	2007 Q 3	54,031,962	25,129,545	21,643,417	706,857	65,032,264	166,544,045
	<u>2007 Q</u> <u>4</u>	0	0	0	0	0	0
	2007	353,381,282	175,748,575	141,528,413	4,473,391	443,812,970	1,118,944,631
Years	5	1,590,730,027	729,044,204	409,715,631	76,002,938	1,886,038,235	4,691,531,035

図 4. ネストされたカテゴリーがある場合の標準のクロス集計表示

# インデント・クロス集計表示

インデント・クロス集計は、ネストされたカテゴリーのレベルをインデントし、カ テゴリー間の関係をより識別しやすくするために使用します。また、この表示はク ロス集計よりもコンパクトな形式で表示されるため、印刷にも適しています。
Revenue as values	<u>Camping</u> Equipment	<u>Golf</u> Eguipment	<u>Mountaineering</u> Equipment	<u>Outdoor</u> Protection	Personal Accessories	Products
2006						
<u>2006 Q</u> <u>1</u>	115,969,290	58,379,261	36,539,206	2,410,113	131,722,288	345,020,158
<u>2006 Q</u> 2	131,594,512	62,467,714	42,683,784	2,632,786	153,205,078	392,583,874
<u>2006 Q</u> <u>3</u>	130,979,047	56,040,116	41,443,786	2,621,541	147,252,623	378,337,113
<u>2006 Q</u> <u>4</u>	122,376,880	54,485,598	40,379,738	2,694,775	162,054,064	381,991,055
2006	500,919,729	231,372,689	161,046,514	10,359,215	594,234,053	1,497,932,200
2007						
2007 Q 1	145,539,940	81,537,354	59,768,436	1,879,174	184,020,708	472,745,612
<u>2007 Q</u> 2	153,809,380	69,081,676	60,116,560	1,887,360	194,759,998	479,654,974
<u>2007 Q</u> <u>3</u>	54,031,962	25,129,545	21,643,417	706,857	65,032,264	166,544,045
<u>2007 Q</u> <u>4</u>	0	0	0	0	0	0
<u>2007</u>	353,381,282	175,748,575	141,528,413	4,473,391	443,812,970	1,118,944,631
Years	1,590,730,027	729,044,204	409,715,631	76,002,938	1,886,038,235	4,691,531,035

図 5. ネストされたカテゴリーがある場合のインデント・クロス集計表示

# 円グラフ表示

円グラフ表示は、各列の合計行のグラフであり、全体から見た割合を示します。負の数はすべて絶対値として処理します。たとえば、-50 と 50 の値はどちらも 50 として表します。このタイプの表示は、項目が少ない場合に便利です。

値がグラフ合計の 10% に満たないカテゴリーは、"その他"というラベルのスライス に分類されます。"その他"のスライスには、値がグラフ合計の 20% に満たない、 80/20 消去を使用したカテゴリーも含まれています。

表示にネストされたカテゴリーが存在しない場合、凡例によって、円グラフの色別 の区分に関連付けられたデータ値と列を識別します。

# 棒グラフ表示

棒グラフ表示は、各列の合計行のグラフであり、絶対的な度合いを示します。特定 の時間間隔での変化を示し、複数の変数を比較して、明確な形式で動向を表す場合 に、棒グラフ表示を使用します。このタイプの表示は、離散型データで役立ちま す。

# クラスター棒グラフ表示

クラスター棒グラフ表示では、関連情報、合計、およびカテゴリーを容易に比較で きるように、グループにおけるクロス集計のセル値を表します。列ごとに1つの棒 グラフ・グループが作成されます。グループ内の各棒グラフが行の値を表します。 表示にネストされたカテゴリーが存在しない場合、凡例が表示され、色別に表され ている行または列を識別します。

## 積み上げグラフ表示

積み上げグラフ表示は、全体に対する部分の相対比率および部分間の関係をグラフ 化して、列にまたがる動向を示します。列ごとに 1 つの棒グラフが作成されます。 棒グラフ内のセグメントが行の値を表します。

表示にネストされたカテゴリーが存在しない場合、凡例が表示され、色別に表され ている行または列を識別します。

#### 折れ線グラフ

棒グラフ表示と同様に、折れ線グラフ表示は各列の合計行のグラフであり、絶対的 な度合いを示します。

特定の時間間隔での変化を示し、複数の変数を比較して、明確な形式で動向を表す 場合に、折れ線グラフ表示を使用します。折れ線グラフ表示は、離散型データで役 立ちます。

## 複線グラフ表示

複線グラフ表示は、線グラフでクロス集計のセル値をグラフ化して、列にまたがる 動向を表示します。

列ごとに 1 本の線が作成され、線のセグメントは各行の値を表します。変数間の関 係を示す動向と周期を表示/比較したり、時系列の分析や変数間の関係を示すとき に、複線グラフを使用します。

表示にネストされたカテゴリーが存在しない場合、凡例が表示され、色別に表され ている行または列を識別します。

#### **3D** 棒グラフ

3D 棒グラフ表示は、3D 棒グラフでクロス集計のセル値をグラフ化して、列にまた がる動向を表示します。

列ごとに 1 つの棒グラフが作成され、棒グラフの頂点が各行の値を表します。複数 の変数間の関係を表示して、他の表示方法では解釈するのが困難な大量のデータを 分析したり、データをさまざまな視点から提供する場合などに、3D 棒グラフを使用 します。

表示にネストされたカテゴリーが存在しない場合、凡例が表示され、色別に表され ている行または列を識別します。

## 散布グラフ

散布グラフ表示は、最初の数値データを Y 軸に、2 番目の数値データを X 軸に表示します。

#### 相関グラフ

相関グラフ表示は、同一キューブ内の 2 つの数値データを比較します。

キューブの最初の数値データが棒グラフとして表示され、2 番目の数値データが線 グラフとして表示されます。IBM Cognos PowerPlay のデフォルトでは、キューブ の最初の 2 つの数値データが表示に使用されます。ただし、比較する数値データは 変更できます。

# 表示の変更

新しいレポートのデフォルト表示は、標準的なクロス集計です。より効率的なデー タ・プレゼンテーションのために、別の表示タイプを選択して、表示を変更するこ とができます。

## 表示の選択

表示タイプを変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

次のいずれかを実行します。

- グラフ表示を選択するには、「グラフ」ボタンの右にある矢印をクリックして、 グラフのタイプをクリックします。
- クロス集計表示を選択するには、「クロス集計」ボタンの右にある矢印をクリックして、クロス集計のタイプをクリックします。

#### グラフ表示の変更

グラフ表示をカスタマイズするには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. 「グラフ」ボタンの右にある矢印をクリックし、「グラフ・オプション」をクリ ックします。

注: グラフのタイプによっては、以下の一部のグラフ・オプションを使用できな い場合があります。例えば、円グラフでは「スケール」タブが表示されません。

- 2. 「全般」タブをクリックし、使用するオプションを選択します。
- 3. 「スケール」タブをクリックして、Y 軸のスケーリング、グリッド線の表示、 軸の目盛数の調整を行います。
- 4. 「統計」タブをクリックして、統計線の書式を設定します。
- 5. 「パレット」タブをクリックして、バーのパターンまたは色を変更します。
- 6. 「背景」タブをクリックして、グラフの背景に色、パターン、または階調を適用 します。
- 7. 「ラベル」タブをクリックして、タイトルを指定します。
- 8. 「**OK**」をクリックします。

関連タスク:

40 ページの『凡例の書式設定』

HTML 凡例または埋め込みの凡例を使用できます。

39 ページの『Y 軸の変更』

Y 軸の一部のプロパティーを変更できます。

『統計線の表示』

統計線を使用して、最小値、最大値、平均値、標準偏差、対数回帰、線形回帰、またはカスタム値を表示できます。

45 ページの『表示のパターンと色の変更』

棒グラフと円グラフ内の異なるカテゴリーを強調表示するため、棒またはスライス の系列ごとに色、パターン、または階調を指定できます。

45 ページの『背景色の適用』

グラフの背景に色、パターン、または階調を適用できます。背景に階調を適用する 場合は、階調の方向を指定します。

45 ページの『ラベルの書式設定』

グラフ表示で使用するラベルをカスタマイズできます。たとえば、カスタム・グラ フ・タイトルの作成やフォント・プロパティーの書式設定が可能です。

#### 相関グラフで使用される数値データの変更

相関グラフで使われる数値データを変更するには、以下の手順を実行します。

手順

ディメンション・ラインから、別の数値データを選択します。 いずれかの数値データがディメンション・ラインに表示されない場合は、スクロー ル・オプションを使用して、ディメンション・ラインの非表示になっている部分を 表示します。

# レポートの値のパーセント表示

レポートの値は、行や列の小計のパーセンテージ、またはレポートの合計のパーセ ンテージで表示できます。

パーセンテージ表示でディメンションを調べると、ビジネス・データを新しい視点 で見ることができるようになります。たとえば、レポートの行に「製品」を入力 し、各製品の収益値を行全体のパーセンテージで表示するとします。これによっ て、製品の合計収益に最も貢献している製品が何であるかがわかります。

#### 手順

「表示オプション」ボタンをクリックし、「表示オプション」をクリックします。 「表示数値データ」ボックスで、パーセンテージのデータ形式を選択し、「**OK**」を クリックします。

# 統計線の表示

統計線を使用して、最小値、最大値、平均値、標準偏差、対数回帰、線形回帰、またはカスタム値を表示できます。

統計線は、系列に基づいています。複数の系列が表示されているグラフに統計線を 適用する場合は、統計線を適用する系列を指定する必要があります。統計線ごとに 線の種類と色を個別に指定できます。統計線は、3-D 棒グラフと円グラフを除くす べてのグラフ表示に設定できます。散布グラフには、標準偏差または対数回帰線を 使用できません。

#### 手順

- 1. 「グラフ」ボタンの右にある矢印をクリックし、「グラフ・オプション」をクリ ックします。
- 2. 「統計」タブをクリックします。
- 3. グラフで使用する統計線のタイプを選択し、線のプロパティーを設定します。

統計線を複数のグラフに定義する場合は、統計線ごとに適用する系列を指定しま す。

4. 「**OK**」をクリックします。

# 通貨値の変換

レポート内の通貨値は、別の通貨に変換できます。

たとえば、カナダ・ドルからユーロにレポートの値を変換できます。Transformer のモデル作成者がキューブで設定した通貨を選択できます。各通貨のデフォルトの 書式も Transformer のモデル作成者によって定義されています。

通貨値に書式を設定するとき、書式設定とは関係なく、通貨記号を指定できます。 このため、通貨の表記を変更せずに、ブラウザーのロケール設定を数値の書式設定 (小数や桁区切りの設定など)に使用できます。

#### 手順

- 1. 「表示オプション」ボタンをクリックし、「表示オプション」をクリックしま す。
- 2. 「通貨」ボックスで、使用する通貨を選択します。

使用できる通貨がない場合は、キューブで定義されている通貨がありません。

#### タスクの結果

キューブで定義されているデフォルト通貨以外の通貨を使用した場合、通貨名がグ ラフに表示されます。

## 例外のハイライト (カスタム)

ユーザー設定ハイライトの規則を定義して、特定のデータを強調表示できます。

レポートの一部として、ユーザー設定ハイライトを定義します。レポートのクロス 集計表示を開くたびにハイライトを利用できるように、IBM Cognos PowerPlay に ユーザー設定ハイライトの定義が保存されます。ユーザー設定ハイライトは、レポ ートのユーザーごとに適用する必要があります。ユーザー設定ハイライトは、20 個 まで定義でき、それぞれの定義に値の範囲を 5 つまで指定できます。

# ユーザー設定ハイライトの定義

ユーザー設定ハイライトを定義して、特定の範囲内の値が指定の書式でクロス集計 表示に表示されるようにします。 たとえば、ユーザー設定ハイライトを定義して、目標を下回った販売金額を赤の背 景で表示することができます。

ユーザー設定ハイライトは、最大 5 つの値の範囲まで指定でき、各範囲には書式ス タイルを適用できます。各範囲に対して最小値、最大値、フォントの色、背景色を 設定します。

#### 手順

- 1. 「例外のハイライト (カスタム)」ボタン 🇊 をクリックします。
- 2. 「ハイライト」ダイアログ・ボックスで、「追加」をクリックします。
- 3. ハイライト定義名を入力します。
- 4. 「最小値」ボックスに最初の範囲の最小値を入力するか、「最小値」をクリック して下限値を設定します。
- 5. 「最大値」ボックスに最初の範囲の最大値を入力するか、「最大値」をクリック して上限値を設定します。
- 6. 範囲に適用する書式オプションを選択します。
- 7. 必要に応じて、さらに別の値範囲を定義します。
- 8. 「**OK**」をクリックします。

#### タスクの結果

「定義済みのハイライト」リストに新しい定義が表示されます。レポートにハイラ イトを表示するには、定義したハイライトを適用する必要があります。

「定義済みのハイライト」のリストにある定義を編集または削除できます。

#### ユーザー設定ハイライトの適用

レポートにハイライトを表示するには、定義済みのユーザー設定ハイライトを適用 する必要があります。 IBM Cognos PowerPlay が特定のセルに表示できるユーザ ー設定ハイライト定義は、一度に 1 つのみです。行や列、またはレポート全体に対 してハイライトを適用すると、同じ行、列、またはレポートにこれまで適用されて いたハイライトはすべて削除されます。

セルが 2 つの定義済みユーザー設定ハイライトの交点に存在する場合、そのセルに 対して適用されている最新のハイライトのみが表示されます。

PowerPlay では、ユーザー設定ハイライトはクロス集計表示のみで表示されます。 すべての表示にユーザー設定ハイライトを定義できますが、PowerPlay では無視さ れます。

ユーザー設定ハイライトは、算出式、算出カテゴリー、および数値データなど、あ らゆる種類のセルに適用できます。

1 つのユーザー設定ハイライトを親カテゴリーにし、別のハイライトをその子カテ ゴリーに適用することも可能です。子カテゴリーに対して定義するハイライトを親 カテゴリーの合計に適用し、子カテゴリーを表示できるように親カテゴリーを拡張 してから、親カテゴリーの合計に対して定義するハイライトを適用します。 ユーザー設定ハイライトを適用する前に、それを定義しておく必要があります。

#### ユーザー設定ハイライトを適用する

ユーザー設定ハイライトを適用するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

- 1. 「例外のハイライト (カスタム)」ボタン 📴 をクリックします。
- 2. クロス集計で、行、列、または数値データを選択します。

ヒント:クロス集計全体を選択するには、クロス集計の"数値データ"セルをクリッ クします。クロス集計全体の選択を解除するには、"数値データ"セルを再度クリ ックします。

- 3. 「定義済みのハイライト」のリストで、適用するユーザー設定ハイライトをクリ ックし、「適用」をクリックします。
- 4. 「**OK**」をクリックします。

#### ユーザー設定ハイライトの削除

ユーザー設定ハイライトを削除するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

- 1. ユーザー設定ハイライトが適用されているカテゴリーをクリックします。
- 2. 「定義済みのハイライト」のリストから「(なし)」を選択します。
- 3. 「**OK**」をクリックします。

#### 自動ハイライトの設定

IBM Cognos PowerPlay には、新しいデータ内の例外的な値を自動的にハイライト 表示にする機能があります。例外値はレポートまたはクロス集計上で反転表示にさ れ、その数値への注意を求めます。

PowerPlay では、行および列の合計値から予想される値よりも非常に高い場合や低い場合は、例外的な値とみなされます。デフォルトの自動ハイライトでは、低い値の場合は赤の太字で、高い値の場合は緑の太字で表示されます。

#### 始める前に

拡張インターフェースの場合、PowerPlay ツールバーには、「例外のハイライト」 ボタンはデフォルトで表示されません。PowerPlay ツールバーに「例外のハイライ ト」ボタンを追加する場合は、管理者に連絡してください。

#### 手順

「例外の強調 (自動)」ボタンをクリックします。

## 値のソート

クロス集計表示では、行と列の値を昇順や降順でソートすることができます。

たとえば、レポートに過去 10 年間の製品売上高が示されているとします。このような場合、売上高統計を最大値から最小値の順にソートすることができます。デー タは、ドリルダウンまたはドリルアップしない限り、ソートされたままになりま す。

#### 手順

1. 値をソートする行または列を選択します。

行または列が強調表示され、行見出しまたは列見出しに「ソート」ボタン 🕃 が表示されます。

2. 「ソート」ボタンをクリックし、昇順または降順のソートを選択します。

#### タスクの結果

行または列に適用したソートのタイプに合わせて、値がソートされ、「ソート」ア イコンが変わります。値のソートを削除するには、「ソート」ボタンをクリックし て「ソートしない」をクリックします。

## 行と列の入れ替え

行と列のカテゴリーの位置は、入れ替えることができます。

たとえば、レポートに行がほとんどなく、印刷されるページの幅を多数の列がはみ 出しているとします。行と列を入れ替えると、1 ページにレポートが収まるように できます。ネストされたクロス集計内のカテゴリーの位置を入れ替えることも可能 です。たとえば、"日付"内に"製品"がネストされている場合、"製品"内に"日付"をネ ストするように表示するために、位置を入れ替えることができます。

ツールバーや次に説明する右クリック・メニューによる操作のほか、ドラッグ・ア ンド・ドロップでも行や列を入れ替えることができます。

#### 手順

次のいずれかを実行します。

- 行と列を入れ替えるには、「行と列を入れ替え」ボタン
   をクリックします。
- ネスト・レベルを入れ替えるには、ネストされたカテゴリーのレベル・セレクター領域を右クリックして、ネスト・レベルを入れ替える方法を選択します。

親カテゴリーとネストされたカテゴリーの場所が入れ替わります。

## クロス集計のサイズ制限

大規模レポートのパフォーマンスを向上させ、読みやすくするために、クロス集計 表示に現れるデータを制限できます。

たとえば、行を 20 まで、列を 10 までというように上限を設定します。ユーザー が IBM Cognos PowerPlay で設定した行数と列数によって、PowerPlay 管理者が 設定したデフォルトの行と列の制限値がオーバーライドされます。 PowerPlay では、クロス集計のサイズを制限するとき、表示内の次の移動ボタンを 利用できます。

表 1. クロス集計のナビゲーション・コントロール

ボタン	説明
4	次のページの列に移動
4	前ページの列に移動
м	最初のページの列に移動
	最後のページの列に移動
▼	次のページの行に移動
	前のページの行に移動
₹	最初のページの行に移動
₹	最後のページの行に移動

ネストされたカテゴリーを持つレポートで行または列の数を制限するときは、最下 層レベルに表示するカテゴリー数を選択する必要があります。小計のカテゴリー は、「小計の非表示」が有効な場合を除き、制限数を超える場合でも、常に各ペー ジに含まれます。

# 手順

- 1. 「表示オプション」ボタン をクリックします。
- 2. 「表示オプション」をクリックします。
- 3. 表示する行数を選択します。
- 4. 表示する列数を選択します。
- 5. 「**OK**」をクリックします。

# ゼロ消去を適用

カテゴリーの値が低い範囲にある場合、ゼロ消去を使用してそのカテゴリーを無視 できます。

たとえば、最下行 (販売金額) にあまり貢献していない販売経路は、レポートから除 外してよいでしょう。また、レポートに適用されないカテゴリーや、ゼロ値を返す カテゴリーも無視できます。 デフォルトのゼロ消去設定を適用すると、すべてのゼロ値、欠落値、オーバーフロ ー値、またはゼロ除算の結果を含んでいる行または列が削除されます。これは行、 列、または両方に対して行うことができます。ゼロ消去は最初の数値データにのみ 適用されます。

複数の数値データをサポートするグラフにゼロ消去を適用すると、ゼロ消去は最初 の数値データにのみ適用されます。相関グラフの線のような 2 次的な数値データ や、両方の数値データがゼロになる条件には、ゼロ消去を適用できません。

「説明」ウィンドウに選択したゼロ消去オプションに関する情報が表示され、クロ ス集計でゼロ消去が有効になっている場合は、「ブックマークを作成」コマンドで 作成された IBM Cognos PowerPlay の URL には変更された設定が維持されま す。

大規模レポートでゼロ消去を有効にすると、パフォーマンスが低下する場合があり ます。

#### 始める前に

PowerPlay 管理者は、特定のキューブまたはレポートに対するゼロ消去オプション の有効と無効を切り替えることができます。次に説明するオプションを使用できな い場合は、管理者に問い合わせてください。

#### 手順

- 1. 「ゼロ消去」オプション・ボタン 🔞 をクリックします。
- 「ゼロ消去」をクリックしてレポート全体からゼロを消去するか、「行のみ」または「列のみ」をクリックします。
- 3. デフォルトのゼロ消去設定を変更するには、「ゼロ消去」オプション・ボタンを クリックして、「オプション」をクリックします。
- 4. 消去設定を変更し、「OK」をクリックします。

ゼロ消去を解除するには、「ゼロ消去」ボタンを再度クリックします。

ドリルスルー・レポートまたはキューブから戻った後に変更内容を保持する場合 は、必ず「元に戻る」を使用してください。他の移動方法では変更内容が失わ れ、レポートの設定がデフォルトのゼロ消去に戻ります。

## 80/20 消去の適用

80/20 消去によって、絶対値が結果の上位 80% に入らない列または行が削除されます。

PowerPlay によって、削除した行または列は、次のレポートにあるように「その 他」と呼ばれる単一の行または列にまとめられます。

Revenue as values	Department Store	Golf Shop	Outdoors Shop	Sports Store	Other	Retailers
2004	218,702,078	81,215,607	226,186,674	251,409,694	137,223,414	914,737,467
2005	234,093,351	117,475,668	353,378,729	299,825,656	155, 143, 333	1,159,916,737
2006	262,268,935	166,343,991	507,156,406	382,221,520	179,941,348	1,497,932,200
2007	166,878,294	128,767,474	407,281,116	288,785,273	127,232,474	1,118,944,631
Years	881,942,658	493,802,740	1,494,002,925	1,222,242,143	599,540,569	4,691,531,035

図 6. 80/20 消去が適用されたレポート

#### 手順

「80/20 消去」ボタン 20 をクリックします。 「その他」というラベルのカテゴリーが表示されていない場合は、レポートのディ メンション内の全カテゴリーが合計の 80% に入っていることを意味します。 すべてのカテゴリーを表示するには、「80/20 消去」ボタンを再度クリックしま す。

# Y 軸の変更

Y 軸の一部のプロパティーを変更できます。

たとえば、値が似ているカテゴリーの相違を簡単に識別できるようにするために、 グリッド線の数を増やすことができます。

#### 手順

- 1. 「グラフ」ボタン □□ ↑ の右にある矢印をクリックし、グラフのタイプをク リックします。
- 2. 「グラフ」ボタンの右にある矢印をクリックし、「グラフ・オプション」をクリ ックします。
- 3. 「スケール」タブをクリックし、使用するオプションを選択します。
  - スケールの最大値または最小値を設定するには、「手動軸スケールを使用」
     チェック・ボックスをオンにして、適切なボックスに値を入力します。
  - グリッド線を表示するには、「グリッド線を表示」チェック・ボックスをオンにします。

3D 棒グラフの場合、該当する面のグリッド線ボックスをオンにします。

- 軸を反転して最大値を一番下に表示するには、「逆軸」チェック・ボックス をオンにします。
- 軸の目盛数を指定するには、「目盛数」チェック・ボックスをオンにして、 ボックスに値を入力します。
- 軸の場所を指定するには、「軸の配置」の下にある「左」、「右」、または 「左と右」のいずれかをクリックします。

最後の 3 つのオプションは、3D 棒グラフには使用できません。

4. 「**OK**」をクリックします。

グラフのサイズ変更

グラフのサイズを画面に対する割合に合わせて変更できます。

#### 手順

- 1. 「グラフ」ボタンの右にある矢印をクリックし、グラフのタイプをクリックしま す。
- 2. 「グラフ」ボタンの右にある矢印をクリックし、「グラフ・オプション」をクリ ックします。
- 3. 「全般」タブをクリックします。
- 4. 「画面のサイズに対する割合」チェック・ボックスをオンにします。
- 5. 「高さ」ボックスと「幅」ボックスに、10~500 の範囲の数値を入力します。

変更後のグラフで 1:1 の縦横比を維持するには、「高さ」ボックスと「幅」ボ ックスに同じ数字を入力します。

6. 「**OK**」をクリックします。

# 凡例の書式設定

HTML 凡例または埋め込みの凡例を使用できます。

埋め込みの凡例はグラフの一部でるという利点があり、グラフをコピーした場合も 含まれます。ただし、埋め込みの凡例は画像の一部であるため、限られた数のカテ ゴリーしか含めることができません。一部のカテゴリーを表示できない場合は、矢 印で示されます。HTML の凡例では、ドラッグ・アンド・ドロップなどのクロス集 計操作を実行できます。

#### 手順

- 1. 「グラフ」ボタンの右にある矢印をクリックし、「グラフ・オプション」をクリ ックします。
- 2. 「全般」タブをクリックします。
- 3. HTML 凡例または埋め込みの凡例のいずれかを選択します。
- 4. 埋め込みの凡例を選択した場合は、表示する場所を指定します。
- 5. 「**OK**」をクリックします。

# 数値データ値の値に基づくランク・カテゴリーの追加

レポートにランク・カテゴリーを追加して、ランク序数を表示できます。

ランク付けを行うと、レポートに序数が追加されてカテゴリー間で比較できます。 たとえば、すべての製品の収益を表したレポートがあるとします。このレポートに ランク・カテゴリーを追加すると、最も収益の高い製品を確認できます。

各カテゴリーは、指定した行または列の数値によってランク付けされます。ランキ ング序数が新しい行または列に表示されます。ランク・カテゴリーのラベルと値が 斜体で表示されます。 ランク付けの結果は、昇順または降順にソートしたり、ソートせずにそのまま表示 したりできます。レポートのデータが変更されると、ランク・カテゴリーとソート 順が自動的に更新されます。ランク付けは、レポート内の複数の行または列に対し て実行できます。

予測計算または合計値はランク付けできません。

ランク・オプションを使用できない場合は、ランキング機能の使用について管理者 に依頼してください。

#### 手順

- 1. ランク・カテゴリーの基準にする行または列を選択し、「ランク」ボタン をクリックします。
- 2. ランキングのプロパティーを変更します。
- 3. 「**OK**」をクリックします。

# カテゴリーの非表示

キューブの作成時に挿入した、事前に算出したカテゴリーを含む、レポート内の任 意のカテゴリーに対し非表示を選択することができます。

カテゴリーを非表示にしても、レポートの合計には影響を与えません。

#### 手順

1 つのカテゴリーを非表示にするのか、複数のカテゴリーを非表示にするのかを決 定します。

- 1 つのカテゴリーを非表示にするには、非表示にするカテゴリーを右クリックして「選択を非表示」をクリックします。
- 複数のカテゴリーを非表示にするには、非表示にするカテゴリーを右クリックして「非表示/表示」をクリックします。非表示にするカテゴリーを「非表示のカテゴリー」ボックスに移動し、「OK」をクリックします。
- 事前算出カテゴリーを非表示にするには、表示オプション・ボタンをクリックして、「表示オプション」から「キューブに定義されている算出カテゴリーの非表示」チェック・ボックスをオンにして、「OK」をクリックします。

#### タスクの結果

非表示のすべてのカテゴリーを表示するには、表示オプション・ボタンをクリック して「リセット」をクリックします。

# 短い形式名の表示

レポートのカテゴリー名の表示を、長い形式と短い形式の間で切り替えることがで きます。 短い形式の名前は、キューブ内の任意のカテゴリーに定義できる、オプションのプ ロパティーです。短い形式のカテゴリー名を表示することで、スクロールしなくて もすべての行または列を表示できる場合があります。短い形式の名前は、次のもの に表示されます。

- クロス集計表示
- ディメンションの表示
- ドリルダウン表示
- 「説明」ダイアログ・ボックス
- 「計算式」ダイアログ・ボックス
- エクスポートされた PDF レポートと CSV レポート
- 「検索」ダイアログ・ボックス
- 「非表示/表示」ダイアログ・ボックス

短い形式の名前を表示した場合、キューブで短い名前が定義されていないカテゴリ ーは長い形式の名前が表示されます。

#### 手順

- 1. 「表示オプション」ボタンをクリックします。
- 2. 「表示オプション」をクリックします。
- 3. 「短い形式の名前を表示」チェック・ボックスをオンにします。
- 4. 「**OK**」をクリックします。

# タイトルの追加

レポートのタイトルを作成または編集できます。

タイトルの名前を入力するだけでなく、レポート・タイトルに変数を使用すること も可能です。たとえば、変数を使用して、キューブのファイル名と日付をレポー ト・タイトルに表示することができます。デフォルトでは、IBM Cognos Transformer のモデル作成者がキューブ・タイトルを定義している場合、そのタイ トルがレポート・タイトルに使用されます。

#### 手順

- 1. 「表示オプション」ボタンをクリックし、「タイトルの編集」をクリックしま す。
- 2. タイトルを入力します。IBM Cognos PowerPlay の管理者が許可している場合 は、HTML タグでタイトルの書式を設定します。
- 変数を使用してタイトルに情報を追加するには、「変数」ボックスで項目を選択 して「挿入」をクリックします。
- レポートを PDF にエクスポートするときにディメンション・バーを表示する場合は、「ディメンション・バーの情報を表示する」チェック・ボックスをオンにします。
- 5. 「**OK**」をクリックします。

関連概念:

『レポート・タイトルで有効な HTML タグ』

デフォルトのサーバー設定では、レポートのタイトルに使用できる埋め込み HTML コンテンツが制限されます。この制限により、発行されたレポートを利用者が表示 する際に、不要なスクリプトが実行されるのを防ぐことができます。管理者はデフ ォルトのサーバー設定を変更して、すべての有効な HTML タグをレポート・タイ トルで使用可能にできます。

# レポート・タイトルで有効な HTML タグ

デフォルトのサーバー設定では、レポートのタイトルに使用できる埋め込み HTML コンテンツが制限されます。この制限により、発行されたレポートを利用者が表示 する際に、不要なスクリプトが実行されるのを防ぐことができます。管理者はデフ ォルトのサーバー設定を変更して、すべての有効な HTML タグをレポート・タイ トルで使用可能にできます。

埋め込み HTML の制約が有効の場合、使用できる HTML タグは次のとおりです。

- <I>、<B>、<U>、<BR> (属性は指定不可)
- <P> (align、dir、style、class、および title 属性を指定可能)
- <SPAN>、<DIV> (dir、style、および class 属性を指定可能)

XML との互換性を確保するために、すべてのタグに閉じ角括弧を使用します。

認識されないタグ、無効な属性が指定されたタグ、予期しない値が指定された style 属性を含むタグは、タイトルでテキストとして表示されます。

#### スタイル属性値

スタイル属性は <P>、<SPAN> および <DIV> タグで指定できますが、指定できる値は次の値のみです。

- font
- font-size
- font-weight
- font-style
- color
- background-color
- text-decoration

一部のスタイル要素は指定できません。たとえば、font-family 要素は使用できません。font-size 要素の後には数字のみを使用でき、color 要素は rgb (#,#,#) の形式でのみ使用できます。

たとえば、24 ポイントの太字、赤色のテキストでタイトルを作成するには、「タイ トル・テキスト」ボックスに次のように入力します。

My
Customized Report

# レポートでの複数の数値データの表示

レポートに複数の数値データを表示できます。

複数の数値データを使用した場合、数値データは行または列として表示されます。 カテゴリーに対して使用したさまざまなレイアウト手法の多くは、数値データに対 しても有効です。たとえば、数値データを別の場所にドラッグ・アンド・ドロップ してレイアウトを変更できます。また、1 つ以上の数値データを非表示にすること もできます。並べ替えが可能なのは、数値データ・ディメンションの最上位レベル の数値データのみです。

複数の数値データの使用が適さない表示タイプもあります。レポートに複数の数値 データが含まれている場合、相関グラフや散布グラフへの変更はできません。

#### 手順

- 1. クロス集計表示で、ディメンションの表示から数値データをレポートに追加しま す。
  - すべての数値データを追加するには、"数値データ"フォルダーを右クリックし、「行の置換」または「列の置換」のいずれかをクリックします。
  - 個々の数値データを追加するには、追加する数値データをクリックし、その 他の数値データの上または下に現れる強調表示領域までドラッグします。
- 数値データを移動するには、移動する数値データをクリックし、その他 2 つの 数値データの間に現れる強調表示領域までドラッグします。
- 3. 今後の使用のために数値データのレイアウトを保存しておく場合は、レポートを ポータルに保存するか、.pdf 形式または .csv 形式でエクスポートするか、ブッ クマークを作成します。

キューブを閉じたときに、変更された数値データの順番はキューブに保存されま せん。

# レポートに複数のカテゴリーを表示するためのレイヤーの使用

レイヤーを使用すると、データをページに分割して表示し、ページごとにディメン ションの同一レベルの異なるカテゴリーでフィルターをかけることができます。

たとえば、小売業者タイプごとの製品別の収益を示したレポートが必要になったと します。製品別収益のレポートを PDF 形式にエクスポートするときに、小売業者 ディメンションに基づくレイヤーの使用を選択すると、作成された PDF レポート には、各小売業者タイプの製品別収益がそれぞれ別のページに表示されます。

#### 手順

- 1. 「ファイル」ボタン ▲ をクリックし、「PDF のエクスポート」をクリッ クします。
- 2. 「表示」タブで、「レイヤーを含める」を選択し、レイヤー効果を適用するディ メンションを選択します。
- 3. 「エクスポート」をクリックします。

## 表示のパターンと色の変更

棒グラフと円グラフ内の異なるカテゴリーを強調表示するため、棒またはスライス の系列ごとに色、パターン、または階調を指定できます。

パターンは、白黒で印刷する際に特に便利です。線グラフでは、グラフの線ごとに 色、線の種類、およびマーカーの種類を指定できます。

PowerPlay には 16 色パレットがあります。グラフに 16 色よりも多くの色が必要 になる場合は、複数の系列で同じ色が使用されます。

円グラフでは、値がグラフ合計の 10% に満たないすべてのカテゴリーは、「その 他」というラベルのスライスに分類されます。このスライスのデフォルトの色は変 更できません。

#### 手順

- 1. 「グラフ」ボタンの右にある矢印をクリックし、「グラフ・オプション」をクリ ックします。
- 2. 「パレット」タブをクリックします。
- 3. 適用する形式を選択します。
- 4. 「**OK**」をクリックします。

# 背景色の適用

グラフの背景に色、パターン、または階調を適用できます。背景に階調を適用する 場合は、階調の方向を指定します。

#### 手順

- 1. 「グラフ」ボタンの右にある矢印をクリックし、「グラフ・オプション」をクリ ックします。
- 2. 「背景」タブをクリックします。
- 3. 適用する背景書式を指定します。
- 4. 「**OK**」をクリックします。

## ラベルの書式設定

グラフ表示で使用するラベルをカスタマイズできます。たとえば、カスタム・グラ フ・タイトルの作成やフォント・プロパティーの書式設定が可能です。

横軸ラベルのオプションの 1 つとして、ラベルを縦方向に配置するか斜めに配置す るかのオプションがあります。これらのオプションを選択する場合、デフォルトの 横方向の配置を使用する場合よりも広い表示領域が必要になります。ラベルを縦方 向または斜めに配置するのに十分な領域がない場合、IBM Cognos PowerPlay では デフォルトの横方向の配置が使用されます。

#### 手順

1. 「グラフ」ボタンの右にある矢印をクリックし、「グラフ・オプション」をクリ ックします。

- 2. 「ラベル」タブをクリックします。
- 3. 編集するラベルを選択します。
- 4. ラベルのプロパティーを指定します。

必要なフォントが表示されない場合は、管理者に問い合わせてください。 5. 「**OK**」をクリックします。

# 書式マーカーの追加

単線グラフ、複線グラフ、および相関グラフにマーカーを追加できます。

## 手順

- 1. 「グラフ」ボタンの右にある矢印をクリックし、「グラフ・オプション」をクリ ックします。
- 2. 「全般」タブをクリックし、マーカーと値を表示するかどうかを選択します。
- 3. 「パレット」タブをクリックし、マーカーのタイプを選択します。
- 4. 「**OK**」をクリックします。

# 第4章 結果の配布

結果は、次の方法で配布できます。

- IBM Cognos PowerPlay レポートを IBM Cognos Analytics ポータル内の共 有フォルダーに保存する
- Microsoft Excel (.xls) 形式などの異なるファイル形式にレポートをエクスポート する
- レポートに対してブックマークを作成して、Web ブラウザーに保存するか、他のユーザーに送信する
- レポートを印刷する
- 他のアプリケーションで、レポートにあるグラフなどのグラフィック要素を再利 用する

# レポートの作成

データ・ソースを開いて検討した後、または既存のレポートを開いて変更した後 で、新規レポートを IBM Cognos Analytics ポータル内に作成できます。

レポートを作成する際、レポートを「チーム・コンテンツ」に保存するか、「個人 用コンテンツ」に保存するか、あるいは保存場所として新しいフォルダーを作成す るかを選択できます。

IBM Cognos PowerPlay Studio からレポートを保存すると、レポートの保存先フ ォルダーのアクセス権を持つレポート作成者が、PowerPlay Client でそのレポート を開けるようになります。 PowerPlay Studio と PowerPlay Client には機能に違 いがあるため、PowerPlay Studio レポートを PowerPlay Client で開くと、表示が 異なることがあります。例えば、パターンや階調、軸の配置、タイトルなど、 PowerPlay Studio で適用した一部のグラフ書式は、PowerPlay Client 上のレポー トには表示されません。レポートを PowerPlay Client で使用することがわかって いる場合は、PowerPlay Client のレポートで使用できないレポート機能は使用しな いようにしてください。

#### 始める前に

PowerPlay Client のユーザーが確実にレポートを開いたり保存したりできるように するために、PowerPlay Client がインストールされているコンピューターの地域的 および言語的なオプションによってサポートされない可能性がある文字、または Microsoft Windows のファイル名で許可されていない文字 ("/\|?\* など)を レポート名に使用しないでください。\*.

#### 手順

1. 「名前を付けて保存」ボタンをクリックします。

プロンプトが表示されたら、認証情報を入力します。

2. ウィザードの手順に従って操作し、「OK」をクリックします。

選択したポータルの場所への書き込み権限が必要です。

説明や画面のヒントには、一部のタイプのレポートに有益な情報を表示できま す。たとえば、複数の PowerCube へのデータ・ソース接続を使用するパッケ ージに基づいてレポートを作成するとします。レポートを発行する際に、説明や 画面のヒントに PowerCube の接続名を指定しておくと、レポート利用者がレ ポートを開く際にどの接続を選択すればよいかがわかります。

#### タスクの結果

Web ブラウザーにレポートが再表示され、他のユーザーが Cognos Analytics ポー タルからレポートを閲覧できるようになります。

# 既存のレポートの置換

IBM Cognos Analytics ポータルに発行済みのレポートを変更する場合は、他のレ ポート利用者用のレポートも置き換えることができます。

レポートを置き換えることができるのは、ポータルからレポートにアクセスし、ポ ータルの場所への書き込み権限がある場合のみです。

#### 手順

- 1. Cognos Analytics ポータルでレポートを開きます。
- 2. レポートを更新します。
- 3. 「保存」ボタンをクリックします。

#### タスクの結果

レポートが Web ブラウザーで開かれた状態のまま、ポータルの場所でレポート情報が置き換えられます。

# 別の形式へのデータのエクスポート

レポートのデータをエクスポートすると、他のアプリケーションで使用できるよう になります。

データを次の形式でエクスポートできます。

- 区切り付きテキスト形式 (.csv)。さまざまなアプリケーションでの使用が可能です。
- Microsoft Excel 形式
- .pdf 形式。レポートの書式を維持し、Adobe Reader で表示可能な形式でレポートを配布する場合に使用します。

## CSV ファイル形式によるデータのエクスポート

レポートを区切り付きテキスト形式でエクスポートできます。

区切り付きテキスト形式は、最もよく使用されるエクスポート形式の1つです。多 くのアプリケーションで、区切り付きテキスト形式のファイルをインポート・ソー スとして使用できます。区切り付きテキスト形式では、多言語環境での互換性が高 くなります。また、Microsoft Excel など、他のアプリケーションにインポートする 場合の信頼性も確保されています。

PowerPlay では、.csv ファイルの作成時に次のような形式変換を行います。

表 2. CSV ファイルの変換書式

走書	変換の詳細
数値データ	数字の書式またはパターンにロケールとは異 なる明示的な小数点が含まれている場合で も、ロケールの小数点記号が使用されます。
	桁区切り記号 (US ロケールの千の位を表す 記号など、大きな数を区切るために使用する 記号) は CSV エクスポートでは使用されま せん。
	マイナス符号にはロケールの書式ではなく記 号が使用されます。この記号も、その数に使 用された明示的な書式とは異なる場合があり ます。マイナス記号は常に先頭に付きます。
	たとえば、ドイツ語ロケールの「DE_DE」で は、「(765 000.45)」として書式設定された 数値が「-765000,45」として CSV 形式にエ クスポートされます。
通貨データ	通貨値には数値と同じ規則が適用されます。 通貨記号はエクスポートされません。
	例えば、ロケール「EN_US」では、IBM Cognos PowerPlay レポートの数値書式が 「\$123,456.00」の場合に、PowerPlay から 「123456.00」がエクスポートされます。
文字データ	いくつかの製品では、オプションでテキスト の前後に引用符を追加できます。この方法に よって、エクスポートされたファイルで、リ スト・セパレーター (コンマなど)を含むテ キスト・フィールドが複数のフィールドとし て解釈されることを防止できます。
日時のデータ	日付は ISO 形式 (YYYY-MM-DD) でエクス ポートされます。
	時刻は ISO 形式 (hh:mm:ss) でエクスポー トされます。時間の値 (hh) には 24 時間形 式が使用されます。
	注: PowerPlay では、日付は Transformer モデルで定義され、テキストとしてエクスポ ートされます。

このデータは、Microsoft Excel などの CSV 形式ファイルをサポートするアプリケ ーションで表示できます。Microsoft Excel がインストールされていない場合は、 .csv ファイルをいったんコンピューターに保存して、別のアプリケーションで開き ます。

管理者が「CSV エクスポートのディメンション・ライン」設定を有効にしている場合は、ディメンション・ラインが .csv ファイルに表示されます。

Microsoft Excel がインストールされている場合は、CSV 形式のファイル (.csv) を コンピューターに保存したり、直接 Microsoft Excel でデータを開いたりできま す。

#### 始める前に

Microsoft Excel でデータを直接開くには、使用している Web ブラウザーが CSV 形式を認識できるように設定されている必要があります。

エクスポートされた CSV 形式ファイルを認識できるように Microsoft Internet Explorer Web ブラウザーを設定するには、オペレーティング・システムで、 Microsoft Excel コンマ区切り文字ファイル形式の MIME タイプを「**text/x-csv**」に 設定する必要があります。

#### 手順

- 1. レポートを作成します。
- 2. 「ファイル」ボタン ♪ をクリックし、「CSV のエクスポート」をクリッ クします。

ファイルを開くか、コンピューターに保存するかを尋ねられます。

#### タスクの結果

エクスポートした .csv ファイルのセルの順序が正しくない場合は、PowerPlay の 地域の設定がオペレーティング・システムの地域の設定と一致していることを確認 します。

# Microsoft Excel 形式へのデータのエクスポート

レポートを Microsoft Excel にエクスポートできます。

見出しを含めて 65,536 行までエクスポートできます。大規模なクエリーは、.csv 形式でエクスポートします。

#### 手順

- 1. レポートを作成します。
- 2. 「ファイル」ボタンをクリックし、Microsoft Excel 形式を選択します。

ファイルを開くか、コンピューターに保存するかを尋ねられます。後でファイル を識別しやすくするために、デフォルト名を変更して保存します。

## **PDF** 形式によるデータのエクスポート

レポートを PDF 形式でエクスポートできます。

PDF のエクスポート設定は、PDF 出力が元のレポートと細部まで一致するように 設定されます。PDF が HTML 表示にできるだけ詳細に一致するように、PDF 出 力レポートのページ付け、折り返し、ステータス行、用紙サイズ、および向きをカ スタマイズできます。また、レポートを読みやすくするために境界線を表示できま す。ディメンション・レベルの各親族カテゴリーでフィルターしたレイヤー・ビュ ーを表示することもできます。

ディメンション・レベルの親族カテゴリーでフィルターした各ページにデータを表示するには、まず、レイヤーに使用するディメンションのフィルターを選択する必要があります。このフィルターでは、PDF レポートでレイヤーとして使用する子を持つディメンションを指定します。

#### 手順

- 1. レポートを作成します。
- 2. 「ファイル」ボタンをクリックし、「PDF のエクスポート」をクリックします。
- 3. 用紙、表示、ページ付けのプロパティーを選択します。
- 4. 現在のレポートまたはすべてのレポートのどちらに設定を使用するかを決定しま す。
  - 他のレポートでも使用するために設定を保存するには、「適用」、「エクス ポート」の順にクリックします。

「レイヤーを含める」と「対象ディメンション」の設定を PDF のエクスポートごとに指定する必要があります。

現在のレポートのみで設定を使用するには、「エクスポート」をクリックします。

#### タスクの結果

PDF のエクスポート設定をデフォルトに戻すには、「リセット」をクリックします。

## ブックマークの作成

ブックマークは、特定のレポートに戻るときに便利な方法です。

たとえば、特定の商品群を表示するようにフィルターした売上高のレポートに、ブ ックマークを付けたとします。次に、Web ブラウザーのブックマーク・リストから レポート名を選択します。ブラウザーでレポートが開き、現在のデータが表示され ます。

ブックマークを作成する場合は、レポートの完全な URL が IBM Cognos PowerPlay で定義されます。この URL には、通常の URL には含まれていない、 レポートのカテゴリー、データ形式、およびフィルターに関する情報が含まれてい ます。ブックマークを作成した後、Web ブラウザーのブックマーク・リストまたは お気に入りリストに、ブックマークの URL を追加できます。

#### 手順

- 1. レポートを作成します。
- 2. 「ファイル」ボタンをクリックし、「ブックマークを作成」をクリックします。

Web ブラウザーの「場所」ボックスまたは「アドレス」ボックスに、レポート の完全な URL が表示されます。

3. Web ブラウザーの機能を使用して、Web ブラウザーのブックマーク・リスト またはお気に入りリストにブックマークを追加します。

# レポートの印刷

IBM Cognos PowerPlay Studio Viewer では、Adobe Reader の印刷オプションを 使用してレポートを印刷できます。

#### 手順

- 1. レポートを PDF 形式で開きます。
- 2. Adobe Reader のツールバーの「印刷」ボタンをクリックします。

Web ブラウザーの印刷コマンドを使用してレポートを印刷しないでください。

# 他のアプリケーションのグラフ表示の再利用

Microsoft Internet Explorer を使用している場合は、Microsoft Word のドキュメ ントや Microsoft PowerPoint のプレゼンテーションなど、他のドキュメントのグ ラフやグラフの凡例を再利用できます。

コピーした内容は、グラフィック要素として代替アプリケーションに埋め込まれま す。元のデータ・ソースへのリンクは失われます。

グラフの凡例は HTML テーブルを使用して作成されます。貼り付け先のアプリケ ーションで HTML 形式がサポートされていない場合は、凡例の表示が異なる場合 があります。

#### 手順

グラフやグラフの凡例を右クリックして、「クリップボードにコピー」をクリックします。

ヒント:「クリップボードにコピー」が表示されない場合は、Ctrl キーを押しな がら右クリックします。

 グラフを貼り付けるドキュメントを開き、「編集」メニューの「貼り付け」をク リックします。

# 第5章予測の式

趨勢法、成長法、および自己回帰法のいずれかの時系列予測方法を使用して、過去 のデータに基づいてビジネスの将来の業績を予測できます。

IBM Cognos PowerPlay のすべての予測方法で、単変量の予測方法が使用されてい ます。このため、行、列、合計行、または合計列にかかわらず、それぞれのカテゴ リーが個別の時系列として扱われます。

# 趨勢予測の式

趨勢予測の式は次のとおりです。

y = at + b

y は従属変数 (収益など)、t は時間を表す独立変数です。

および

$$b = \frac{\left(\sum_{i=1}^{N} y_i\right) \left(\sum_{i=1}^{N} t_i^2\right) - \left(\sum_{i=1}^{N} t_i\right) \left(\sum_{i=1}^{N} t_i y_i\right)}{N\left(\sum_{i=1}^{N} t_i^2\right) - \left(\sum_{i=1}^{N} t_i\right)^2}$$
(3) (3)

傾向線の過去のデータへの近似度を示す傾向係数は、次の方程式で定義されます。

$$R^2 = 1 - \frac{SSE}{SST}$$

パラメーターの説明

$$SSE = \sum_{i=1}^{N} (y_i - \hat{y}_i)^2 \quad (残差の自乗和)$$

および

$$SST = \left(\sum_{i=1}^{N} y_i^2\right) - \frac{\left(\sum_{i=1}^{N} y_i\right)^2}{N}$$

成長予測の式

成長予測の式は次のとおりです。

 $y = ba^t$ 

b は切片、a は伸び率定数です。

IBM Cognos PowerPlay は、対数的変換回帰モデルを使用してこの方程式を解きます。

# 自己回帰予測の式

自己回帰予測の式は次のとおりです。

$$y_t = \sum_{j=1}^M d_j y_{t-j}$$

パラメーターの説明

$$\sum_{j=1}^{M} \phi_{\lfloor j-k \rfloor} d_j = \phi_k \qquad \left(k = 1, \dots, M\right) \qquad (d_j \, \mathrm{li} \, \mathrm{k} \, \mathrm{RF} \, \mathrm{ll} \, (\mathrm{LP}) \, \mathrm{o} \, \mathrm{K} \, \mathrm{sl})$$

および

$$\phi_j = \langle y_i y_{i+j} \rangle \approx \frac{1}{N-j} \sum_{i=1}^{N-j} y_i y_{i+j}$$
 (過去の系列の自己相関)

IBM Cognos PowerPlay では Burg のアルゴリズムおよびデータ・ポイントの半分の数値に等しいデータ・ウィンドウ (M) を使用して、これらの方程式の結果が求められます。

# 付録. トラブルシューティング

この章では、発生する可能性がある一般的な問題について説明します。トラブルシ ューティングの詳細については、「IBM Cognos PowerPlay 移行および管理ガイ ド」を参照してください。

# PowerPlay Studio で計算を挿入するとエラーが発生する

計算の挿入後、ブラウザーからエラーが表示され、計算処理が成功しない場合があ ります。この問題は、Microsoft Internet Explorer 7 と Mozilla Firefox で発生す るおそれがあります。

現時点では、Internet Explorer 7 と Mozilla Firefox でこの問題を回避する方法は ありません。Internet Explorer 6 の使用時には、この問題は発生しません。

# スケジュールされたレポートの E メールでリンクを開いたときにエラーが 発生する

ユーザーがレポートの実行をスケジュールし、配信オプションとして E メールを要 求した場合、最後に送信された E メールにおいてのみ、有効なリンクが保持されま す。それ以前の E メールに記載されているリンクは、すでに存在しなくなったレポ ートを参照しているため、クリックしても空白ページが表示されるか、またはペー ジが見つからないというエラーが表示されます。

# 日本語でグラフ・タイトルを編集中にページ・エラーが発生する

グラフ・タイトルのフォントを日本語のフォントに設定すると、エラーが発生する ことがあります。このエラーは、UTF-8 以外の日本語フォントを選択すると発生し ます。

日本語のフォントに UTF-8 を選択すると、この問題は解決します。

# **PowerPlay Studio** で **PowerPlay** レポートを開く際、**Firefox** ブラウザー でエラーが報告される問題

Mozilla Firefox 1.5 ブラウザーでは、W3C CSS 準拠でないスタイルが、JavaScript コンソールでエラーとして報告されます。これには、Microsoft Internet Explorer 特有のスタイルの多くと、構成に不備のあるスタイルが一部含まれます。これらの エラーは、IBM Cognos PowerPlay レポートおよびキューブの正常なロードに影響 はありません。

## 長い文字列が途中で切り詰められる

行の折り返しは、単語間にスペースを使用する言語でのみ機能します。

中国語、韓国語、日本語、タイ語などの言語で行を強制的に折り返すには、文字列 内で折り返しに適当な場所に1バイトのスペースを挿入します。

# グラフに表示されるヘブライ語のテキスト

グラフ要素の中には、双方向のヘブライ語テキストが、「視覚的」順序ではなく 「論理的」順序で表示されることがあります。詳細については、 http://people.w3.org/rishida/scripts/bidi/を参照してください。

# **PDF** へのエクスポート後に円グラフにある"その他"カテゴリーのラベルが 実際のカテゴリー名に変更される

IBM Cognos PowerPlay Studio で円グラフを作成すると、「その他」カテゴリー が生成されて凡例に表示されます。 PDF にエクスポートすると、凡例では"その他" カテゴリーの代わりに正しいカテゴリー名が表示されます。これは製品の仕様で す。

# 表示が読めないあるいは正しく表示されない

Microsoft Internet Explorer 7 を使用している場合、ズーム設定が大きいと、表示 が読めなくなってしまう場合があります。たとえば、一部の表示要素が重なってし まうことがあります。

正しく表示するには、Internet Explorer 7 のズーム設定を小さくします。

# 横軸のラベルが縦方向または斜め方向に表示されない

横軸ラベルのオプションの 1 つとして、ラベルを縦方向に配置するか斜めに配置す るかのオプションがあります。これらのオプションを選択する場合、デフォルトの 横方向の配置を使用する場合よりも広い表示領域が必要になります。ラベルを縦方 向または斜めに配置するのに十分な領域がない場合、IBM Cognos PowerPlay Studio ではデフォルトの横方向の配置が使用されます。

# 別のパッケージにドリルスルーしたときに、レポートのコンテキストが正し く渡されない

IBM Cognos PowerPlay Studio または IBM Cognos Analytics - Reporting から 別のパッケージにドリルスルーしたときに、ソースの情報がターゲット・オブジェ クトに正しく渡されないことがあります。列に、"調理用具"、"テント"、"寝袋"、"リ ュック"、"ランタン"が表示されるレポートがあるとします。行には、 "2007"、"2008"、"2009"が表示されています。別のパッケージにドリルスルーしたと きに、"2007"、"2008"、"2009"が行として表示されません。

このような状況が発生する可能性があるのは、ドリルスルー・ターゲットがパッケ ージで、ドリルスルー操作が「PowerPlay Studio で開く」に設定されている場合 です。

# 出力バージョン・リストからレポートを表示すると、レポートが常に Cognos Viewer で開く

保存された IBM Cognos PowerPlay 出力レポート・バージョンを表示すると、プ ロパティーで PowerPlay Studio Viewer が指定されている場合でも、レポートは 常に Cognos Viewer で開きます。

レポートを PowerPlay Studio Report Viewer で表示するには、IBM Cognos Analytics ポータルから「オプションを指定して実行」を使用して、レポートを対話 的に実行します。

# 別のパッケージにドリルスルーしたときに、レポートのコンテキストが期待 どおりに渡されない

IBM Cognos Analytics のドリルスルー・アクセスは、IBM Cognos Series 7 とは 異なります。IBM Cognos Series 7 のドリルスルー動作に慣れている場合、IBM Cognos Analytics のドリルスルーではレポート・コンテキストの渡し方が異なるこ とがあるので注意してください。

IBM Cognos Analytics のドリルスルー定義を使用すると、異なるパッケージ間の ドリルスルー・アクセスを設定できます。このタイプのドリルスルー定義はソー ス・パッケージに保存されます。このドリルスルー定義では、「PowerPlay Studio で開く」などの操作を、ターゲットを開くときのデフォルト操作として指定しま す。このドリルスルー・オプションがあるため、IBM Cognos Series 7 とは異なる ドリルスルー結果が生成されることがあります。例えば、通常は行に"年"が配置され ているパッケージにドリルスルーしたときに、"年"が、ターゲットに渡される最初の ドリルスルー・パラメーターに置き換えられます。

IBM Cognos Series 7 の動作を再現するには、ターゲット・パッケージのデフォルト・ビューに基づくレポートを作成し、そのレポートをドリルスルー・ターゲットとして使用します。

# 特記事項

本書は IBM が世界各国で提供する製品およびサービスについて作成したものです。

この記述は、IBM から他の言語で提供されている場合があります。ただし、これを 入手するには、本製品または当該言語版製品を所有している必要がある場合があり ます。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合 があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM製品、プログラム、またはサービスに 言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能で あることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵 害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用する ことができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評 価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。本書には、お客様が購入さ れたプログラムまたはライセンス資格に含まれない製品、サービス、または機能に 関する説明が含まれる場合があります。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を 保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実 施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わ せは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19番21号 日本アイ・ビー・エム株式会社 法務・知的財産 知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 IBM お よびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態で提 供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むす べての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっ ては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限 を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的 に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。 IBM は予告なしに、随 時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を 行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜の ため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありま せん。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではあり ません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。 IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプロ グラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の 相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする 方は、下記に連絡してください。

IBM Software Group Attention: Licensing 3755 Riverside Dr. Ottawa, ON K1V 1B7 Canada

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができま すが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、 IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれ と同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定された ものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。 一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値 が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一 部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があ ります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要がありま す。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公 に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っ ておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要 求については確証できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製 品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回 される場合があり、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。よ り具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品 などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであ り、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎませ ん。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示さ れない場合があります。 このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、セッションごとの Cookie および持続的な Cookie を使用して、それぞれのお客様に関する以下の情報 を収集する場合があります。

- 名前
- ユーザー名
- パスワード

その目的は、以下のとおりです。

- セッション管理
- 認証
- お客様の利便性の向上
- シングル・サインオン構成
- セッション管理、認証、お客様の利便性の向上およびシングル・サインオン構成
   以外の利用の追跡または機能上の目的

これらの Cookie を 無効にすることはできません。

この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを 使用してエンド・ユーザーから個人を特定できる情報を収集する機能を提供する場 合、 お客様は、このような情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライ ン等を遵守する必要があります。これには、エンドユーザーへの通知や同意の要求 も含まれますがそれらには限られません。

このような目的での Cookie を含む様々なテクノロジーの使用の詳細については、 IBM の『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメントのハイライト』 (https://www.ibm.com/privacy/jp/ja/) を参照してください。

# 索引

日本語,数字,英字,特殊文字の順に配列されてい ます。なお,濁音と半濁音は清音と同等に扱われて います。

# [ア行]

値 消去する 38 ソート 36 通貨を変換する 33 パーセンテージで表示する 32 マーカーの上に表示 46 移動 行と列 12 計算 19 入れ替える ネスト・レベル 36 色 背景 45 変更する 45 印刷する 52 レポート 52 レポート、Acrobat を使用して 52 レポートを .pdf 形式で 52 インデント・クロス集計 表示 28 埋め込む 凡例 40 エクスポートする スプレッドシート形式 48 .csv ファイル 48 .pdf ファイル 51 .xls ファイル 50 円グラフ表示 29 収める レポートをページに 36 折れ線グラフ 30

# [カ行]

拡大縮小する Y 軸 39 拡張インターフェース ツールバー 3 ディメンションの表示 3 表示 2 カスタム値 表示 33 カスタム・サブセット カテゴリー 15 カスタム・サブセット (続き) 作成する 13 定義を表示する 17 カテゴリー カスタム・サブセット 15 検討する 4 説明の表示 24 ネストされたカテゴリーの小計を非表示にする 17 ネストする 12 非表示にする 41 フィルターをかける 11 別のディメンションからネストする 12 変更する 4 カテゴリーのサブセット 作成する 13 管理する レポート 7 キューブ 表示 1 行 数を設定する 37 計算を挿入する 18 ソート 36 非表示にする 41 列と入れ替える 36 クラスター棒グラフ 表示 30 Y 軸を設定する 39 グラフ 折れ線グラフ 30 コピー 52 サイズを変更する 40 散布グラフ 30 相関 31 背景色 45 パターンと色 45 変更する 31 マーカーと線の種類 45 ラベル 45 クロス集計 サイズを制限する 37 表示 27 傾向係数 53 計算 移動 19 実行する 18 挿入する 18 変更する 19 編集する 19 予測 20

検索 数値データ 9 ディメンション 9 合計 非表示にする 17 子カテゴリー 検討する 4 ネストする 12 変更する 4 コピー グラフ 52 コンマ区切り値ファイル 50 にエクスポートする 48

# [サ行]

最小 表示 33 サイズを変更する グラフ 40 レポート 36,37 最大 表示 33 作成する ブックマーク 52 ユーザー設定ハイライト 34 予測 20 散布グラフ 30 赱 自己回帰 54 趨勢法 53 成長法 54 予測 53 Burg のアルゴリズム 54 自己回帰予測 定義 21 シナリオ・ディメンション 分析する 10 消去する 值 38 ゼロ 38 データ 38 80/20 38 小計 非表示にする 17 書式設定 マーカー 46 書式を設定する クロス集計のサイズを制限する 37 凡例 40 趨勢予測 定義 20 例 20 数値データ 検索 9 検討する 5

数値データ (続き) 説明の表示 24 パーセンテージで表示する 32 表示する 5 変更する 5 compare 30, 31 スプレッドシート形式 にエクスポートする 48 制限 データ 11 制限する クロス集計のサイズ 37 成長予測 定義 21 セキュリティー 11 説明 カテゴリー 24 数値データ 24 セル 24 表示 24 セル 説明の表示 24 ゼロ 消去する 38 線形回帰 表示 33 選択する カテゴリー 4 線の種類 変更する 45 ソート 值 36 行 36 データ 36 列 36 相関グラフ 31 挿入する 計算 18 [夕行] 対数回帰 表示 33 代替階層 分析する 23 タイトル レポートに追加する 42 短縮名

N 数回帰 表示 33 代替階層 分析する 23 タイトル レポートに追加する 42 短縮名 表示する 42 ツールバー 3 レベル・セレクター 3 通貨 値を変換する 33 選択する 33 積み上げグラフ Y 軸を設定する 39
積み上げグラフ表示 30 データ 消去する 38 制限 11 ソート 36 データを後で取得 22 パーセンテージで表示する 32 非表示にする 22,41 フィルターをかける 11 定義 カスタム・サブセットを表示する 17 ドリルスルー定義 25 ディメンション 検索 9 シナリオ 10 ディメンションの表示 3 ディメンション・ライン 3 適用 自動例外 35 ゼロ消去 38 80/20 消去 38 適用する ユーザー設定ハイライト 34 デザイン・モード 大きいキューブに対して使用する 22 統計線 表示 33 トラブルシューティング 55 ドリルアップ 10 ドリルスルー PowerPlay Studio 25 ドリルスルー・アクセス 25 ドリルダウン 10

# [ナ行]

並べ替える 数値データ 44 ネストする カテゴリー 12 カテゴリー、別のディメンションから 12 ネスト・カテゴリー 小計を非表示にする 17

# [ハ行]

パーセンテージ 値の表示 32 背景 色 45 ハイライト ユーザー設定ハイライト 33 例外を自動的に 35 パターン 変更する 45 パッケージ PowerCube 25 発行する レポート 47 Upfront 48 凡例 書式設定 40 非表示にする 值 38 カテゴリー 41 合計 17 小計 17 データ 22,41 複数のカテゴリー 41 表示 1 インデント・クロス集計 28 円グラフ 29 折れ線グラフ 30 拡張インターフェース 2 クラスター棒グラフ 30 グラフと表を同時に 23 クロス集計 27 コピー 52 散布グラフ 30 情報 24 説明 24 相関 31 積み上げグラフ 30 統計線 33 背景色 45 パターンと色 45 複線グラフ 30 変更する 31 棒グラフ 29 マーカーと線の種類 45 ラベル 45 3D 棒グラフ 30 Y 軸を設定する 39 表示する 数値データ 5 表示する、レイヤー 7 標準偏差 表示 33 フィルターをかける カテゴリー 11 データ 11 複数レベル ドリルダウンとドリルアップ 10 複線グラフ Y 軸を設定する 39 複線グラフ表示 30 ブックマーク 作成する 52 ブラウザー ブックマークを作成する 52 分割表示 23

分析する シナリオ・ディメンション 10 ページ レポートを収める 36 平均 表示 33 変換する 通貨值 33 変更する 計算 19 数値データ 5 表示タイプ 31 編集する 計算 19 レポート・タイトル 42 棒グラフ Y 軸を設定する 39 棒グラフ表示 29 保存する スプレッドシート形式 48 レポート、ブックマークとして 52 レポートを Upfront に 48 .csv ファイル 48

### [マ行]

マーカー 書式設定 46 マーカーの種類 変更する 45

# [ヤ行]

ユーザー設定ハイライト 作成する 34 適用する 34 横軸のラベル 配置を変更する 56 予測 傾向係数の式 53 作成する 20 式 53 自己回帰の式 54 自己回帰法 (季節性) 21 趨勢、例 20 趨勢法 (線形または直線) 20 趨勢法の式 53 成長法 (曲線形または曲線) 21 成長法の式 54 利用条件 20

### [ラ行]

ラベル 書式設定 45

ランク・カテゴリー 追加する 41 利用条件 予測 20 例外 カスタムのハイライト 33 自動強調表示 35 レイヤーを表示する 7 列 数を設定する 37 行と入れ替える 36 計算を挿入する 18 ソート 36 非表示にする 41 レベル ネスト・レベルを入れ替える 36 レベル・セレクター ツールバー 3 レポート 管理する 7 クロス集計のサイズを制限する 37 検討する 7 タイトルを追加する 42 ブックマークとして保存する 52 保存する 48 Acrobat を使用して印刷する 52 PowerPlay Client と PowerPlay Studio の違い 47 Upfront で置き換える 48 .pdf として印刷する 52 レポートの変更 設定の変更 6 レポートを検討する 7

## [数字]

3 次元の棒グラフ 30 3D 棒グラフ 30 80/20 消去 38

# A

Acrobat 使用してレポートを印刷する 52

### В

Burg のアルゴリズム 予測 54

## С

compare 数値データ 30, 31 CSV ファイル 50

### Ε

Excel にエクスポートする 50

# Η

HTML タイトル内のタグ 43 凡例 40 レポート・タイトルにタグを追加する 42

# I

IBM Cognos PowerPlay インストールのトラブルシューティング 55 Internet Explorer PowerPlay Studio の計算でのエラー 55

#### Μ

Mozilla Firefox PowerPlay Studio の計算でのエラー 55

#### Ν

NewsItems 更新する 48

#### Ρ

PowerPlay Studio Explorer の概要 1 PowerPlay Web Explorer デザイン・モード 22

### U

Upfront レポートを置換する 48

### [特殊文字]

.csv にエクスポートする 48 .pdf 形式 レポートを PDF 形式で印刷する 52